ミュンヘンへの道

本誌前号の〃世界選手権リポート〃で近藤信行選手がユーゴ戦の引き分けを反省して、日本の情報力に疑問を投げかけているのは注目される。

この問題は同号の座談会でも感じられいかに「相手に己を知られ、己が相手を知らなかった」ことが今回の代表団に大きなショックと不安を与えていたかうかがえよう。

実は、今回ほどあらゆるルートを使って事前の資料集めをしたことはない。村田監督のノートにはぎっしりとヨーロッパ各国の戦績や、個人記録がメモされていたのだ。しかし所せんそれらは活字のうえの情報であり実戦に大きな役割を果すものではなかった。この心配を補うため昨年11月に行なわれたユーゴ対スペインの予選試合や、チェコの出場しそうな国際大会へのスカウト（偵察）派遣が計画されたのだが、財政上の問題で見送られてしまった。もし、この提案が実現していれば、いっそうの好成果をあげ得ただろうと悔やまれる。こうした活動を行なうには日本と本場・ヨーロッパはあまりにも遠すぎるのだ。

外国チームにとっても日本を相手とした場合同じ条件ともいえるが、チェコの主脳が西ドイツにおける日本との親善試合（練習試合の要素が濃いにもかかわらず……）を観戦に来てデータを集めていったという話を聞くと、われわれの甘さを改めて痛感しないわけにはいかぬ。

オリンピックが近づくにつれ視察活動はますます活発になるだろう。一部の者が外国誌やヨーロッパのスポーツ紙からニュースを拾って提供しているだけではとうてい追いつかない。

新発足のオリンピック対策部は強化一本やりではなく、こうした分野に担当者を配するというが国内での体制はもとよりヨーロッパに在住している各校のOBを網らするほか、在外商社などへのコネクションをたよって広域的な情報活動を開始しなければなるまい。そうでなければ今回のように、大事な舞台の直前で選手たちに動揺を与えてしまうことになるだろう。

日本ハンドボール界のもつ計画性の欠如というマイナス面がこうした問題にも影響していると考えるのは酷か。「ミュンヘンへの道」はトッププレイヤーの技倆だけを強化すればよいというだけのものでないことを知るべきだ。

（杉山）

時　評

春季の学生シーズンが各地で幕をあけ、そしておわった。

関東学生リーグを見る機会をもった。

一・二部の試合を見た。二部の試合をひどいと思いながら見ていた。一部はと見ると、これもまたひどい。ミス合戦だ。昨年までの二部によく見られたミスから速攻、シュートになる前にミス。そこから逆速攻、これのくりかえしが多いのには、ガッカリしたというより驚いた。

日本のハンドボール界のトップレベルを自負していた学生界しかもその最上位を独占していた関東学生がこのていたらく。関東のレベルが落ちて、他地区があがっていてくれるのを望むが決っしてそうではないらしい

試合場であったOBにきいてみても、異口同意にレベルの低下を嘆いていた。

関東も男子36チームという盛況を迎えているが、その実情はお寒い限りだ。12人の人数が集らないチームが一部にも散見される。いろいろ事情はあろうが人数がいるというのは最低の条件であろう。

このレベルの低下と人数の少なさの原因は徹底的に追求してみる必要があると思う。一つには、いかなる運動部というものにも入りたがらない傾向が高校生、大学生の中にあること。もう一つには、いわゆる大学紛争のあおりがいろんな意味で現われているのではないだろうか。

コーチ連が現役選手に対するのにためらいというか遠慮があるのではないだろうか。技術の伝達というか、体の技術を体で覚えるのに、このようなものはあってはならないものであろう。

学生スポーツというのが、そもそも日本的なものであることは確かだし、これまでの日本のスポーツ界を支えてきたのは学生チームであった。これが変りつつあるのも確かである。しかし、ハンドボール界の現状としてはいろいろな意味でまだまだ学生界が果さねばならない役割は大きい。学生界がレベルダウンしていたのでは、これからのハンドボール界はお先まっくらである。

学生諸君の奮起と、コーチ連のそれを刺激するような活躍を望みたいものである。

史上最強といわれるナショナルチームをより一層強力なものとするために、国内の試合の厳しさを望んだが、学生界こそその厳しい試合が望まれよう。

（F）

「ハンドボール」6月号（第76号）目次

表紙　関東学生春季リーグ戦日体大連勝の原動力となったGK本田の果敢なプレー（4月29日、対中大戦から）

日体大、中大、三景、東京教員など

〜全日本総合の推せんチーム〜

日本協会では8月18日から22日までの5日間、和歌山県打田町で開く第22回全日本総合選手権の男子推せんチームを次のように発表した。いずれも各加盟団体から推せんされたもので、このほかブロック代表12チーム（関東、東海近畿各2、北海道、東北、北信越、中国、四国、九州各1）、和歌山県（開催地）代表2チームが7月15日までに決められる。すでに九州予選は終わり、熊本トヨタ（熊本）が勝ち名乗りをあげている。

なお、女子は32チーム以内にかぎり自由参加（例年どおり）。男女とも申しこみ〆切日は7月15日組み合せ抽せんは7月18日日本協会で行なわれる予定。

○…日本協会推せん…○

全立教（東京）、大崎電気工業（埼玉）　以上2チーム

○…全日本学連推せん…○

岩手大（東北・北海道、岩手）、日体大、中央大、芝浦工大（関東、いずれも東京）名城大（東海、愛知）、同志社大（関西、京都）、大阪経大（関西、大阪）、中四国学連代表鹿児島大（九州、鹿児島）

以上9チーム

中四国学連代表は6月1日に推せんされる。

○…全日本実連推せん…○

三景（東京）、常盤工業（岐阜）住友化学菊本製造所（愛媛）、日進商会（神奈川）、自衛隊代表

以上5チーム

自衛隊代表は7月5日に推せんされる。

○…全日本教職連推せん…○

東京教員（東京）、大阪イーグルス（大阪）　以上2チーム

国体、今年も11人（1チーム構成）

今秋、盛岡市で開かれる第25回国体のハンドボール競技は、各種別とも1チーム11人の特別規定で行なわれることになった。国体には出場人員のワクが定められておりルールどおり12名で行なう場合は出場チーム数を減らさなければならない。

8月3日から全日本高校

今年の全日本高校選手権（第21回）大会は8月3日から8日までの6日間滋賀県彦根市の総合運動場と近江高校運動場を併用して開かれるが申込〆切日は7月2日、組み合せ抽せんは7月4日彦根東高校で行なわれる。

来秋　スウェーデン（男子）を招待

女子もソビエトとの交流計画

日本協会では4月26日東京で開いた全国評議員・理事合同会議席上、来年度以降の国際試合（特に外国チーム招へい）について協議したが、3月の世界選手権時、内交渉を行なって一応の了解点に達しているスウェーデン男子ナショナルチームを来年9月招待することを正式に決めた。詳細は今後の交渉によって決まるが9月4日〜26日に8試合を日本側は希望している。昭和47年（オリンピック・イヤー）に来日の意向を示しているデンマークについては後日検討する。また、女子の強化の一環としてソビエトチームを来年度上半期あるいは9月（男子のスウェーデンと併行）に招待する計画を承認した。

女子の頂点強化具体化へ

日本協会ではオリンピックをめざす男子の頂点強化を積極化する一方、女子についても近く具体的なトップレベル向上に関する対策を打ち出すことになった。

男子の華やかな頂点強化にくらべて、このところ女子のトップに関する話題がさびしかったのはミュンヘン・オリンピックの女子採用が遠のいたことや前回の世界選手権流会で5年間も世界の舞台が幕を閉じたままになっていたことが原因。しかし、世界選手権も来秋6年ぶりで行われることになり（開催地は9月のIHF総会で決定）日本協会でも男子と併行して世界の上位進出をめざすことになった。

男子の場合はオリンピック対策部の発足（4月26日）で、一切の頂点強化対策はここで運用されるが、女子はとりあえず新設の技術指導部内の女子委員会が担当することになろう。

4月末、駒沢で開かれた旧選手強化対策委員会総会では、特に「女子委員から活溌な意見が出され、男子と同よう対策――世界選手権前の欧州遠征、国内における数次の強化合宿」などが要望されたというが一方に「女子はその特異性から男子とそっくり同じ方法をとることはむしろ得策ではない」とする意見もあると伝えられる。チーム単位でいわゆる「分散強化」し強者同士の試合を多くすることによってレベルアップする方法が最善だという考えかたも強く6月には構想の一部が明きらかになるというが注目される。

7月学生来日、8月に高校(男)遠征

日本協会ではこのほど今年の日韓交流計画を次のように決め発表した。

〜今年の日韓交流決まる〜

学　生

全日本学連が窓口となって折しようをつづけていたが、このほど日本側の示した〃7月招待〃を韓国側が了承、昭和38年6月以来7年ぶりに韓国学生チームを迎えることになった

来日するのは韓国最強チーム（単独）役員5、選手14名で次の5試合が予定されている。

日韓の大学交流は36年10月の日体大訪韓（11人制）、38年6月の韓国学生選抜の来日、昨年の日体大訪韓についで4度目。外国の現役学生が単独チームで来日するのは初めてのこと。

第4回日韓大学交流日程（予定）

▽7月1日または2日来日
▽3日第一戦　日体大（駒沢）
▽5日　全仙台学生（仙台）
▽7日　全関西学生（大阪）
▽8日　全東海学生（名古屋）
▽9日　全関東学生（駒沢）

高　校

日本体協では4月21日東京で今年度の日韓高校スポーツ交歓競技会（第3回）派遣計画をまとめた。

それによると同大会は8月19日から3日間ソウルでハンドボール陸上競技など8競技が行なわれる

ハンドボールは8月1日から滋賀県彦根市で開く第21回全日本高校選手権の男子優勝校が代表として派遣されることになった。役員2、選手12人の予定。両国高校男子の交流は今年で5度目。

懸案の女子は今年も採用が見送られたが、韓国側の交流希望は強く、この大会とはなれて日本協会あてに今秋10月上旬、日本チームを招待したいと伝えて来ており高体連では近くこの問題について協議する。

全日本総合は「12月・室内」

来年度からの実施正式に決まる

4月26日東京で開かれた全国評議員・理事合同会議は来年度からの全日本総合選手権及び全日本選抜について協議した。

本誌前号既報のとおり全日本総合選手権は小委員会の示した「12月、室内、男子16、女子12、全推せん制」案を全面的に了承、来年度からの実施にあたっての具体策は常務理事会が早急にまとめることになった。

全日本選抜は、NHKの了解がとれれば「NHK杯全日本選抜大会」と改称して継続するとした。

時期については小委員会の6月案ではチーム選考の資料が不足するという意見が強く、9月開催を改めて研究することになり結論を持ちこした。ところで、小委員会案は「全日本総合」をいっそう権威づけるものとしてうけとられ、まったく反論はなかった。

全日本総合の〃移動〃でいちばん問題となるのは開催地と社会人代表の選出法だ。

開催地はこれまで国体の前年に会場地のリハーサル的な意味を含めて持ち廻って来たが「室内」を原則とすることにした為この慣習うけつぐことは不可能にちかい。

常務理事会では体育館事情などを考えて数年は大都市の輪番制としたい意向だ。

難問はむしろ社会人代表の選出にある。小委員会案では「男子2女子1」の社会人代表に出場権を与えることとしているが〃社会人〃とはいわゆる一般クラブを指すものだ。大学にしろ実業団にしろすべてがクラブだ、といった意見もあり「クラブ」というものの定義づけが先決であろう。高校、大学は問題がない。実業団のなかで全社的後援のうすい極めてクラブ的色彩の濃いチームの取り扱いが微妙である。「会社（企業）名を登録しているチームはすべて実業団とみるより方法はない」（杉山常務理事）のかもしれぬ。代表選出はどうして行なうか。手っとりばやいのはこれまでの予選を利用、男子の場合はさらに東日本、西日本の両地域予選、女子の場合はブロック代表を一堂に集めていわゆる「インター・ブロック」を開くことだろう。

この問題については常務理事会案を9月までにまとめ10月の全国会議（国体時）で協議の予定。クラブ層への施策は日本協会の課題でもあり、一石二鳥の効果もあるだけに慎重な検討が望まれる。

国際部を復活

日本協会ではこのほど執行部内に国際部を復活することを決めた

部長には久田暁氏（早大出）が常務理事として新任の予定。

70年の話題を探る（上）

有力新人加えた男子実業団

新シーズンが幕をあけて2ケ月経った。遅ればせながら今年の男女有力チームの動向、戦力を展望し2回に分けて話題を拾い出してみよう。
なお、学生界はすでに春の公式戦を終了し、いちおう新しいチーム力が判断されたようなので男子は省略した。【杉山　茂＝NHK運動部】

○……女子に比べ男子の実業団はこれまでその大多数が〝実業団という名のクラブチーム〟的体質であったが、同好者の熱意と努力が認められ会社側のバックアップを受けるチームが目立って増えて来た。活発に学生界、高校界から戦力補強を展じるチームも多く、この傾向は、やがては実業団球界が学生界に代って斯界の主力となることを暗示しているといえよう。

選手にとっても学窓を去ったあと会社でハンドボールが続けられることは〝魅力〟になっているようで、積極的に実業団の門戸をたたく選手もシーズンごとに増えて来ている。

熊本トヨタ、九州を制す

○……女子につづいて男子も実業団の黄金時代が到来するという〝予言〟を裏付けるようにシーズン早々の九州選手権（5月・宮崎）で熊本トヨタ（熊本）が大分教員長崎教員（抽せん勝ち）らを退けて初優勝を飾ったのは大きな話題であろう。これで今年の関東以西6ブロックのチャンピオンチームはすべて実業団となる公算が強くなった。

熊本トヨタは秦、毛利、坂田ら去年まで熊本クに所属して活躍した選手が〝独立〟したもの。

実業団の抬頭・躍進の〝秘密〟は何よりも会社側の理解にある。

社長の陣頭指揮を得てシーズンごとに優秀選手を補強している大崎電気（埼玉）の球史はその好サンプルだ。

藤中、大同製鋼入り

○……大同製鋼（愛知）がめざましい力の入れかたである。

西村、戸谷といった創立メンバーをチーム運営の軸にして一昨年あたりから有力選手を加入させ、昨年は野田（オリンピック候補）GK柳川を迎えて攻守の柱をつくり、今春は藤中（日体大、オリンピック候補）加藤（立教大）、GK倉谷（岩国工）ら7人を加えた「全日本のベストフォアが目標」（西村選手）という自信に満ちた布陣であり注目される。

セントラル自動車（神奈川）も成長株の一つ。中村、羽毛田、門間らに若崎（芝浦工大）、峰（鹿町工）加藤（麻生高）など6人を加え厚味を増した。昨年は若さで失ったゲームが多いだけに中村―若崎でまとめれば期待できよう。

○……昨年スタートと同時に木野早川（ともにオリンピック候補）市原、高橋、森、GK松田ら第一線級を揃えたワクナガ薬品（大阪）は、木野、早川が全日本に〝常勤〟したため人数が不足してついに全国大会には1回も姿をみせなかった。

今春になって戸田（立教大）、GK今井（大阪経大）馬野（佐野工）らが加わり一気に飛びだす態勢をととのえた。

実連の〝2部制〟が刺激

○……実連が2月の選手権で採った2部制は、各チームに大きな刺激を与えているようだ。日本鋼管京浜（神奈川）、千代田印刷機製造（千葉）に代って次回（46年2月・横浜）は宗形製作所（大阪）本田技研（三重）が一部入り。やがては「全国実業団リーグ」といった大きなエベントに進むことが予想されるだけに、ビッグ・エイトの戦力・動向は興味がもたれる

○……いぜん揺るぎない力を誇る大崎電気は監督が竹野（オリンピック候補）から宮原藤支男氏に代った。宮原新監督は芝浦工大全盛時の名FW、「パワー・ハンドボール」をめざしてのシャープな戦術展開が期待される。

メンバーにも多少の変動があり竹野、井上、GK福本の三ベテランが退陣、太田（法政大へ）、佐々木、尾崎もぬけた。しかし主力に近藤、近森、飯田、東、平岡、GK下里と6人のオリンピック候補を揃えており、4大タイトル（全日本総合、全日本選抜、全日本実業団、国体）を一人占めにしてもおかしくはない。

三景（東京）もいい。大崎にはいつも惜しいところで逆転されているが、榊、内藤、高梨、山原、GK西牧のヤングパワーが順調に成長。ベテラン尾形、竹村さらに武井（法政大）、喜田（中央大）を加えて多彩な顔ぶれとなった。

監督の江名（オリンピック候補）は要所で巧技を揮うことになろうか。

ひしめく有力チーム

○……常盤工業（岐阜）、住友化学菊本（愛媛）、日進商会（神奈川）、新日鉄名古屋（元・富士鉄名古屋、愛知）。

大げさにいえば今後の実業団球界の消長を握っているグループともいえる。

これらのチームが大崎、三景らを追いあげ、さらには大同、ワクナガら後続の新進にどう対抗していくかは、実業団球界全般のレベルアップにつながるのであり、かって東西の激突によって球界での最高位を不動のものとした学生界に優るとも劣らぬ様相を呈することになろう。

卒直にいって、この4チームの先シーズンの動きは上昇機運というよりもやや安定ムードで、もうひとつ上位の壁を突破する迫力が乏しかった。今シーズンの奮起が望まれる。

主力は常盤が山田、高橋、鳥村GK渡辺。住化が加藤、落海白石GK季原。日進が正本、大山、出口、永島、新日鉄が黒岩、杉野、日光細川、伊藤とほとんど動きをみせていない。新人では住化の藤田、薦田の新居浜工コンビが目立つ。

○……新しく8強入りを約束されている宗形製作所と本田技研はもう古豪の部に数えていいチーム。

しばらく停滞していた宗形は2月の実業団トーナメントで久々に活躍を示した。左腕村上の健斗に負うところが多かったが金子、平瀬（ともに芝浦工大）、佐川（法政大）、古閑（熊本商大）と実戦向きの4人を加えたのは大きい。大阪におけるワクナガとの対戦はもつれそうだ。

本田はベテラン松岡の好リードと大下、GK南を要（かなめ）において末岡、小川、星野ら好選手を擁し、いわゆる〃うるさい存在〃だ。

力あげる後続・新進群

○……着実にその力を伸ばして来ているチームも目立ち、しかも特定地区に固ってしのぎを削っている。

それぞれ目標を国体出場と全日本実業団でのベストエイトに置いているだけに対抗意識も強い。

激戦が特に予想される地区は愛知、兵庫、広島、山口だ。

愛知は大同、新日鉄を追って日本碍子、三菱重工などの古豪、パイロットインキ、トヨタ車体ら新鋭がつづいている。

兵庫は富士レジン、神戸製鋼、川崎重工兵庫（川崎車輌）の三つ巴。富士の狩山、林、神鋼の為近、木村、川崎の守屋、岩井ら定評ある選手がいずれも健在、新戦力では富士が鈴下（明治大）、渡部（武庫工）ら5人を加えたのが目立ち、神鋼も吉田（兵庫工）、佐藤（柏崎工）、GK宮永、角谷（ともに武庫工）と有望な若手が加入楽しみである。この三者に大阪機工がどこまで迫るかも話題。

広島の角遂もいっそうはげしくなりそうだ。堅実な伸びをみせる日新製鋼呉は下茂、吹上、松木らの巧者に新人三田、吉田（ともに呉工）のロングシューターを配して特色のあるチームプレーをつくり出そうとしている。日本鋼管福山も松村、中村、金高らベテランと西田、藤島、GK田中それに辺見（三原工）、渡辺、一色（ともに新居浜工）の三新人の若さをミックス、スキのない陣容だ。辺見は全日本高校優秀選手。

このほか三菱レイヨン大竹、石播呉造船らの力も侮れない。

山口も武田薬品光、出光徳山、三井石油化学らがひしめく。このうち武田が今シーズンはいちばん戦力補強したようで下関中央工2連勝の主力・酒井と下松工の末長・長棟コンビを入れた。慶大のポストマンとして定評のあった峯村も配属しだいでメンバーに加ろう出光は浅海、福田を軸にまとまりがある。

全日本総合、国体を待つ和歌山も丸善石油、住友金属の対抗がいっそう白熱しそうだ。丸善は堤本（桃山学院大）が加わり堀江、岸本、辻井、上辻らで自信を高めているようだ。余談になるが、この2チームに和商ク、和歌山教員クを加えた全日本への出場権争いはみものである。

或星視されるグループ

○……今シーズンを飛躍へのステップにしようとするチームも多いシーズン早々話題を集めたのが清国産業（栃木）。関東実業団（4月・横浜）に初登場で4位となったが、主力は去年までAOK栃木で健斗していた山田、小林、落合秋山、黒岩らである。北陸電力（福井）も強いと評判だ。

東西学生界の一流を集めた安田生命（東京）は今年も水口（早大）、津田（西南学院大）らを加えた。宮永、堀切、田口、斎藤、坂井などメンバーに不足はないが勤務先の点在で練習量に不安を残す。

大成プレハブ（東京）はベテラン奥本、鳥井をリーダーに昨秋の東京選手権ではクラブ部門にエントリーするなど「楽しむ境地」。

○……関東の光電工業（群馬）日本発条（神奈川）東海の静岡日野自動車（静岡）、三菱油化（三重）金沢市役所（石川）、近畿の京都信用金庫（京都）、大阪ガス（大阪）らは強豪のなかにはさまれて苦しい立ち場だが斗志満々である。

光電工業は地元富岡高から永井（全日本高校優秀選手）、GK須貝を入社させ田中、今井らで充実して来た。日本発条は北村がまとめあげたチームに石塚（相模台工）高野（塩山商）ら攻撃力を補った。静岡日野はメンバーに変動が少なく長谷川、渡辺、GK坂田らで堅実な動きをみせるだろう。三菱油化は目標として本田技研に挑んで三重県タイトルを狙っているようだ。栗山、市川、田島らに石井（明治大）、川村（山形大）、井端（津工高）を加えた。石井の加入は大きい。京都信用金庫も福井を切り札に三上、南、岩成、田中（京都産業大）らで着実に力を伸ばしている。大阪ガスも地味だが桑山、辻野、恵美ら巧者をそろえ三田（東大）、梶原（京大）の加入は特色のあるチームカラーをいっそう強めるだろう。

○……今年の実業団でベストエイトに加わりながら7・8位となった日本鋼管京浜と千代田印刷機製造。

鋼管は4年前京浜と福山に戦力が分散してから京浜側はもうひとつパッとしない。千代田も持ち駒不足にあえぐ。しかし青木、城、山中、梅崎らの攻守は一流の力をもち立ち直りのキッカケさえつかめば往時の地位はすぐにとりもどせるのではないか。

女子

連続4冠王狙う大洋デパート

話題の ビクター 東京重機の進境に期待

○…オリンピックへの希望が遠のいたとはいえ、来秋に世界選手権を控えた女子界はいちだんと激しい攻防に明け暮れそうだ。

焦点は一昨年以来、出場した全国大会にすべて優勝という大洋デパート（熊本）がどこまでこの快進撃をつづけるか。あるいはどのチームが大洋の独走にストップをかけるかにあろう。

衆目のみるところ大洋は今年もいっそうチーム力を充実しているようだ。

昨年の4冠メンバーから退いたのは田中ひとり。

枝尾、垂水、渡辺、米、三宅、GK小原らはますますその技と力にみがきがかかり後続の島田、蔵田、村中、小林らも成長している

チーム内の競争がはげしいことは戦力を倍増させる何よりの要因

しかも斎藤（大分東高）、長田（古賀高）、並崎（天草農）、加子崎（高水高）、石原（熊本上松中）と有力な新人を加えているのだ。

○…井監督もはっきり「二年つづけて4冠王へ挑戦」といっており、今シーズンは昨年果せなかった「全大会無敗」（注・昨シーズンは全日本選抜、同実業団で各1敗）という野望も同時に宣言している。

他チームの力も引きあげられているが、どこかに若さ、もろさがのぞき試合運びに波がある。

大洋デパートの安定した攻守と〝自信〟は2年連続4大タイトル独占という大偉業の公算をかなり強いものにしているとみたい。

主力退陣の大崎、田村紡

○…大洋の前に立ちはだかるチームといえば、ここ一、二年大崎電気（埼玉）、三菱鉛筆（神奈川）田村紡（三重）と相場が決まっていたが、今シーズンはこの三強のなかから三菱鉛筆が廃部してしまい（注・後掲の日本ビクター岩井の項参照）、大崎、田村紡も主力が抜けた。

大崎は、発足以来初めての監督交代が行われ、宮原氏から福本弘氏（大崎男子のGKとして活躍していた人）にバトンタッチされたところが昨年の主力山崎、小林、GK山田らが退いたうえ新監督第一戦となるハズの関東実業団は故障者の続出で棄権をよぎなくされるというつまづきを見せてしまった

残留した三浦、寺尾、新島らを軸に、新人の岩井（高崎市女高）、山中（小山城南高）長谷川、佐藤（二俣高）、GK和田（二俣川高）らによる新陣容を福本監督がいかに掌握するかが今シーズンの一つのカギになりそうだ。大洋紡から真田の転籍が決まったのはプラス。

○…田村紡も、昨春の主力退陣につづき今春も小林が脱け、往時のレギュラーではGK渡辺美が残るだけとなった。渡辺も試合の大半を久保にゆずるようでまったく若手に切り替ったといってよい。

心技の支柱・小林の引退は特に大きい。三毛、渡辺信らの進境があるとはいえ若林、金田、辻、久保田、広森らはまだまだプレーが若いだけに不安が残る。反面、調子の波にのれば脅威だ。新人は紀平（津女高）沖（古賀高）、金城（豊見城高）沼田（大阪大淀中）の4人。

大崎、田村紡とも2年つづけて大洋デパートの独走に手をこまねいているわけにはいかぬ。ともに単発ながら昨年は大洋に土をつけており、その自信でどう巻き返すか、興味深い。

○…大崎、田村紡を追いこすのではないかと評判なのが東京重機工業（東京）。

GK川本、島田が退いただけで滝口、牧野、市塚、鷺谷らが健在村上、GK長岡の成長もあって上昇ムードだ。

市塚、村上の両左腕を巧く活かした鋭い攻撃を見せ、スピードプレーが安定してくれれば大洋デパートの有力な対抗となろう。

新人は7名で即戦力というわけにはいかないようだが無名ながらスケールの大きい葛西（岩手大東高）ら将来が期待されている。

若手を揃えたブラザー工業

○…ブラザー工業（愛知）は相変らず選手の入れ替りがはげしい

鹿島、浜島、松原、皆川ら7人が退き新たに小島、藤田（ともに名女商）、黒瀬、GK佐藤（ともに広島一女商）、藤浪（室蘭商）らのインター・ハイ組のほか田之上（小林商）、長塚（水海道二高）山田（水俣高）、横田（神戸商）と9人を入社させている。

主軸となるのは朝倉、中野、佐久間で新人がどこまで力を伸ばすかがポイントである。今シーズンある程度の地力を貯え来シーズン一気に最上位へという構想だろう

○…本格的な活動期に入るのが東北宗形製作所（福島）と大洋紡（岐阜）。

宗形は昨秋から田口侑義氏（芝浦工大―大崎電気）を監督に迎え今シーズンから積極的に全国大会にも出場するそうだ。

スタッフも新人7名をふくめ15名をかかえ気力も充実している。

前主将木幡と杉田が辞めたが伊

賀、池沼、永岡と軸になる選手が残る。新加入では後藤（福島女高）を除いてはほとんど中央には無名の選手、増子（東白川農商）、小川、深谷（ともに岩瀬農）、根本、佐藤（ともに緑ケ丘高）らを田口監督がどう育てるか、ゆっくり見守りたい。

大洋紡は森本、真田（大崎へ）鞍富、GK西尾が退いた。痛い。特に得点力に不安があろう。

成長いちぢるしい平野をエースにGK高田、山根、大浦、石井と上野、矢島（ともに益田高）、山本の三新人でどこまでチーム力がまとめあがるか。

東海球界は田村紡に絶対の力がなくなりブラザーも若手中心、大洋紡としては一歩もさがれまい。

注目集める旧・三菱勢

○……初顔の日本ビクター岩井（茨城）。話題のチームである。

旧三菱鉛筆の池田監督以下主力メンバーがそろって移籍した。「アマチュアスポーツでは世界でも珍しいケース」と報道関係者も注目している。

蓮見、江川、八重樫、阿保、阿部、滝、GK吉田それにホープ姫野もヒザが全治すれば加るという。いずれも三菱のレギュラーとして先シーズンは全日本選抜2位、全日本総合3位の原動力となっていたプレイヤーだ。

当然、日本ビクターも一気に国内最上位へと予想されるが、池田監督は「職場がかわるということはデリケートな女子選手にはかなり響くもので、すぐ去年の力を出せるかどうかは判らない。練習環境などもちがうのでじっくり取り組みたい」と慎重である。

このほかすでに同社入りしていた水海道二高出の横島、GK宮本と新人蓮見妹、大塚（昭和学院）、小浜（明林高）が加る。

蓮見は女子の第一線では久しぶりの姉妹選手。実業団では初めてのことである。

大阪スターズと全岩手

○……実業団のカゲにすっかりかくれてしまったクラブチームの動向はどうか。

情報を総合してみても今年も実業団に対抗でき得るのは大阪スターズと国体（10月・盛岡）を控えた全岩手の両チームぐらいなようだ。

大阪スターズは田井がよくチームを引っぱり、古川、山崎、松井細川、GK中村らを主軸にして健斗をつづけている。一、二年前から寝屋川高校出身者が母校のクラブに戻ったためチーム力を落としたが、今年は射場（元・大洋デパート）小林（元・宗形製作所）、坂本（大阪体大）の加入が伝えられるのは心強い。

全岩手は今春東女体大を卒業した熊谷と関を軸に八重樫、葛岡、森鍵、藤原、高橋らの若手OG、吉田（岩手女高）、小原（花巻南高）両新人などさすがに国体開催地らしい厚味のある陣容を布いている。

国体では中島、川井、GK坂野ら東女体大に籍をおく選手が帰郷して加入することになろうから侮れない。

○……クラブの有力チームとなると東北総合優勝の全和洋（秋田）、栃女ク（栃木）、城北ク（静岡）、小商ク（長野）小松市女OG（石川）、寝屋川ク（大阪）、井原OG（岡山）、山陽女OG（広島）、愛媛ク（愛媛）、高知ク（高知）ら名門高校のOGクラブが目立つだけ。寝屋川クは大阪スターズを破っている。

異色の愛知教員クも実業団を押しのけるまでにはいかない。

大阪スターズの健斗が刺激となって各地のOGはいちぢより気力を盛りかえしているというが一般女子の育成は多くの難問をかかえているようだ。

地道な活動をつづけていた実業団・日電高畠（山形）、ほていや（長野）はともに昨年で姿を消した。

望まれる学生勢の進出

○……結局は今シーズンも国内最上位は実業団が占め、これを学生界の日体大、東女体大、中京大、甲子園大あたりがどうからんでいくかという例年どおりの戦局となることはまちがいない。

男子の学生勢が下降気味なのに対し、女子学生界のレベルはこのところむしろ上っている。

高校界から有力選手の加入で個々の力倆もシーズン毎に高められFPでは高島、永田、木村（以上日体大）、中島、高橋、川井、水上（以上東女体大）、渡辺、韮沢（以上東京教大）、松永、普奈木（以上日女体大）、石山、安田、田島（以上中京大）大崎、近藤（以上中京女大）、吉開、亀谷、中本（以上甲子園大）、森崎（大阪体大）らがトップクラス。

GKでも秋間（日体大）坂野、松田（いずれも東女体大）、北岡（中京女大）らは一流だ。

今春の新戦力では岩本（精華女高—日体大）、岩間（花巻南高—東女体大）、畑中（寝屋川高—東京教大）、石井（真備高—夙川短大）和歌（甲子園高—甲子園大）らが目立ち今後に希望がかけられる。

○……来年の世界選手権代表の選考を有力チームの総当り（リーグ戦）で行うという案があり、このリーグへの出場権は当然今シーズンの成績が参考にされるであろうから各チームいっそうの精進と斗志を待望したい。



IHFの重鎮, S・ペライ氏が来日

▽……国際ハンドボール連盟（IHF）技術委員のシグナー・ペライ氏（西ドイツ、55才）が来日した。

大阪で開かれている万国博の西ドイツナショナルデー（5月13日）に出演した西ドイツ少年使節団の団長格で10日から11日間滞在、5月16日には大阪・阪神ホテルで日本協会の田村会長、野原大阪協会々長、荒川理事長、村田オリンピック対策部長らハンドボール関係者と親しくこん談した。

▽……ミュンヘン・オリンピックへの出場権が話題となっている時だけにIHFの重鎮として聞こえるペライ氏の来日はグッド・タイミング。

日本側のオリンピックに関する質問には同氏もなかなか慎重で『予選問題をふくめてすべては9月プラハ（チェコ）で開かれる第13回IHF総会で決まります』と核心にはふれず『8月ストックフォルムでの技術委員会で総会への原案を検討する』ことが確認された程度であった。

▽……しかし『私は日本の実力を高く評価している一人ですし、今春の世界選手権で見せた日本の試合ぶりは他の技術委員も大いに賞讃をしていました』『日本はオリンピックでメダルを狙う国にとって悔れない存在になるでしょう』とIHF筋のわが国に対する関心の一面をのぞかせた。

ペライ氏は札幌のオリンピック施設を見学したあと5月19日東京でIHF担当の渡辺副会長とも会見。同副会長は『男子16ケ国が決まったというほかは特に新しい情報はなかった。技術委員会のメンバーではペライ氏のほかクンスト氏（ルーマニア）も親日家だ。よい結果が総会へ出されることを期待したい』と話していた。

【写真は 来日したペライ氏＝大阪・阪神ホテルで】

モントリオールも採用予定

一九七六年七月のオリンピック大会開催地はこのほどカナダのモントリオール市に決まったが、ミュンヘンにつづいてハンドボールも実施される予定だ。カナダ・ハンドボール界の実力はアメリカ大陸ではずい一のものである。



ハイユニは世界ではじめてのミクロのシンです。三菱鉛筆の85年の歴史と技術がみのり、あらゆるテストに驚くほどよい結果がでました。黒く、濃くきれいに書け、書きべりもしません。発売してから3年—専門家から学童まで多くの人に愛用されています。



ハイ-ユニ

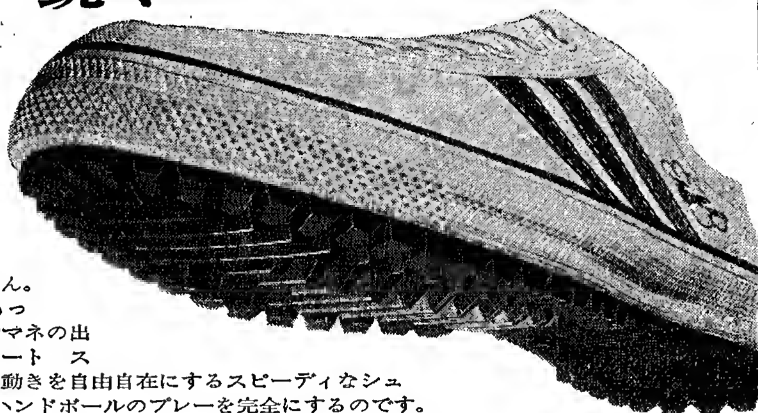
9H・6B・17硬度/1ダース1200円 1本100円

三菱鉛筆

三菱鉛筆株式会社

多角的な動きを
軽快に　鋭く……





ハンドボール
シューズなら
タイガー印で
す———

ハンドボール専用のシューズといえばタイガー印をおいてほかにありません。軽くて適度な弾力性をもった特殊成型底は　ほかでマネの出来ない《技術》です。スタート　ストップ　そして多角的な動きを自由自在にするスピーディなシューズ。この シューズがハンドボールのプレーを完全にするのです。

白地にオリンピックライン　☆22.5〜27.0cm ¥1.100

タイガー ハンドボール シューズ

オニツカ株式会社 本社／神戸市須磨局寺田町3〜1 支店／神戸・大阪・東京

各地の学生リーグ戦記録

春季各地優勝校

▽東北北海道	岩手大
▽北信越	（6月中旬開催）
▽関東（男）	日体大
（女）	日体大
▽東海（男）	名城大
（女）	中京大
▽関西（男）	同志社大
（女）	甲子園大
▽中四国	（5月下旬開催）
▽九州	鹿児島大

東北・北海道

岩手大、春季で初

12年ぶりのタイトル

◇第4回東北北海道春季学生選手権（秋との通算第18回）◇5月3 4、5日 ◇福島大球技場 ◇参加8校

4校づつ2組の予選リーグのあと上位2校、下位2校に分かれて決勝リーグと5―8位決定リーグが行なわれた。

予選リーグで春季3連勝を狙う東北大が強豪にはさまって1勝にとどまり落選する波乱があった。ベストフォアには昨秋の覇者仙台大のほか岩手大、福島大、東北学院大と古豪3校が進んだが岩手大が予選リーグで仙台大からあげた貴重な1勝を自信にして福島大東北学院大に大勝、初優勝を飾った。岩手大は昭和33年秋の第3回東北北海道学生選手権で優勝しておりタイトル獲得は12年ぶり2度目のことである。

▽予選リーグA組

東北大 20―8 山形大
岩手大 20―15 仙台大
仙台大 18―9 東北大
岩手大 22―13 山形大
岩手大 14（分）14 東北大
仙台大 30―7 山形大

【順位】①岩手大2勝1分②仙台大2勝1敗③東北大1勝1敗1分④山形大3敗。

▽同B組

東北学院 16―10 宮城教大
福島大 23―11 北海道大
福島大 24―16 東北学院
宮城教大 17―7 北海道大
東北学院 22―11 北海道大
福島大 11―10 宮城教大

【順位】①福島大3戦全勝②東北学院大2勝1敗③宮城教育大1勝2敗④北海道大3敗

▽5～8位決定リーグ

東北大 14―6 北海道大
山形大 11―8 宮城教大
山形大 14―9 北海道大
東北大 26―3 宮城教大

東北大―山形大、宮城教大―北大の2試合は予選リーグの記録を適用する。

【順位】⑤東北大⑥山形大⑦宮城野大⑧北海道大

▽決勝リーグ

仙台大 34―11 福島大
岩手大 21―12 東北学院
岩手大 17―12 福島大
仙台大 29―6 東北学院

岩手大―仙台大、福島大―東北学院の2試合は予選リーグの記録を適用する。

【順位】①岩手大3戦全勝②仙台大2勝1敗③福島大1勝2敗④東北学院3敗。

東北工大が新加盟

東北・北海道学連はこのほど東北工大（宮城）の新加盟を発表した。同校の活動によって懸案の「宮城5大学リーグ」（東北大、東北学院大、仙台大、宮城教大、東北工大）の発足も決まった。

関東

日体大、3季無敗の優勝

中央、芝工大らの追撃かわす

男子

◇4月22日～5月2日 ◇駒沢、◇1部8校、2部8校、3部8校、4部21校（A、B2組各6校に分かれ予選リーグのあと各組同位校で順位戦（2回戦制）

1部は前評判の高かった日体、中央、芝工大、法政が3連勝したあと互いに星をつぶしあい第5日で法政が2敗をきっし脱落、第6日を終って日体大が全勝、中央・芝工大が1敗でつづいた。

最終日、中央がまず法政に大勝して得失点差プラス72を確保、日体大―芝工大戦は日体大が立ちあがりから巧く試合のペースを握り制勝、全勝をマークして3シーズン連続21回目の優勝を飾った。失点48が示すようにGK本田、大村を要とした堅固な守備が勝因。

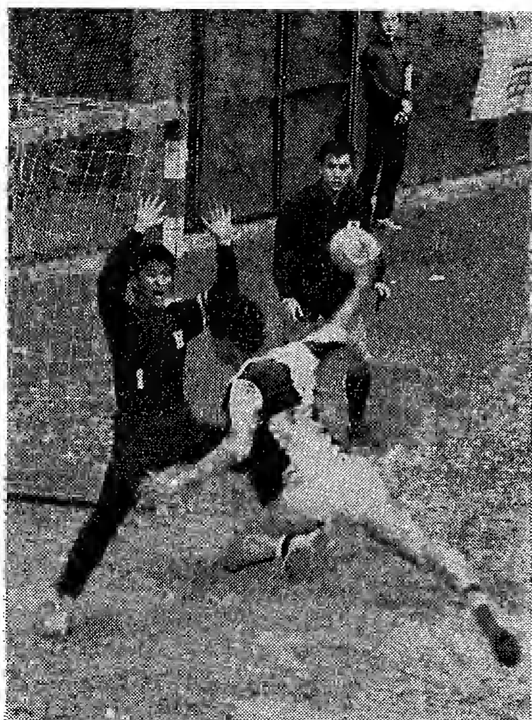
2部は混戦模様だったが早稲田が安定の攻守で勝ち抜いた（2シーズン連続5回目）。2位には東大がくいこみ注目された。

3部は関東学院、武蔵工大がともに6勝をあげたが○・五の勝ち点差で関東学院が首位（2シーズン連続2回目）となった。

4部は新加盟の専修と復帰の千葉大を迎えて12校となり、6校づつ2組のリーグでそれぞれの順位を決定、そのあと順位決定戦を初の2回戦制で行なった。千葉工大―千葉大の優勝争いは1回戦は互角でゆずらず、2回戦も接戦となったが千葉工大がわずかにまさり初優勝した。

▼1部

法政	25	（13―1、12―10）	11	日大
中央	22	（8―4、14―6）	10	東京教大
芝浦工大	22	（12―8、10―6）	14	立教
日体大	27	（12―3、15―2）	5	明治
日体大	16	（9―2、7―2）	4	東京教大



（写真）関東学生・3位をかけた芝浦工大—法政戦から

芝浦工大 37（17 20／6 3）9 日大
中央 32（19 13／9 5）14 明治
法政 10（6 4／4 4）8 立教
中央 21（9 12／4 2）6 日大
法政 25（11 14／9 8）17 明治
芝浦工大 20（10 10／2 5）7 東京教大
日体大 14（8 6／2 6）8 立教
立教 12（10 2／3 3）6 東京教大
日大 21（11 10／11 9）20 明治
日体大 10（5 5／5 4）9 法政

得	【日体】		【法政】	得
0	本田	GK	和田	0
0	大村	GK		
6	斎藤	FP	大島	4
0	亀谷	FP	西村	2
0	安達	FP	大浜	0
0	串野	FP	寺崎	0
0	中村	FP	田中	0
1	田中	FP	荒井	2
1	高橋	FP	中村	0
0	池田	FP	吉野	0
0	氷海	FP	田上	1
2	松原	FP	太田	0
10（1）		7MT		（0）9

中央 24（17 7／7 5）12 芝浦工大

得	【中央】		【芝浦】	得
0	望月	GK	平野	0
0	井上	GK	渡辺	0
3	植田	FP	新実	0
0	中野	FP	鈴木	0
10	花輪	FP	明石	3
4	佐藤要	FP	大江	0
1	佐藤光	FP	木全	5
1	小井土	FP	細江	0
5	佐々木	FP	森	4
0	田中	FP		
0	会田	FP		
0	白石	FP		
24（3）		7MT		（1）12

東京教大 11（4 7／4 4）8 明治

得	【立教】		【日大】	得
0	馬淵	GK	萩原	0
0	菱形	GK	内田	0
3	有永	FP	沢武	4
6	原本	FP	田中	1
1	福田	FP	宮川	2
4	吉本	FP	飯泉	0
2	矢吹	FP	渡部	3
0	中西	FP	松	3
0	安井	FP	内山	0
		FP	細谷	0
		FP	栗岩	0
		FP	戸沢	0
16（0）		7MT		（1）13

芝浦工大 21（9 12／6 6）12 法政
立教 16（4 12／8 5）13 日大

得	【教大】		【明治】	得
0	仲尾	GK	藤森	0
1	松浦	FP	安倍	0
1	森	FP	住田	3
5	高橋	FP	浦野	1
0	久下	FP	末田	0
1	杉山	FP	佐藤	1
0	綿引	FP	相本	3
1	中村	FP	有吉	0
2	横島	FP		
0	山森	FP		
0	新美	FP		
11（2）		7MT		（2）8

（審・北川 田中）

日体大 14（8 6／4 1）5 中央

得	【日体】		【中央】	得
0	本田	GK	望月	0
0	大村	GK	井上	0
2	斎藤	FP	植田	1
0	亀谷	FP	花輪	4
0	安達	FP	佐々木	0
0	串野	FP	佐藤要	0
2	田中	FP	佐藤光	0
4	高橋	FP	白石	0
0	池田	FP	中野	0
1	氷海	FP	小井土	0
4	松原	FP	渡辺	0
13（1）		7MT		（0）5

法政 12（4 8／5 4）9 東京教大
芝浦工大 26（15 11／5 5）10 明治

日体大 13（7 6／5 4）9 日大
中央 21（11 10／9 7）16 立教
日大 14（6 8／5 8）13 東京教大
中央 26（16 10／6 1）7 法政
立教 21（12 9／7 7）14 明治
日体大 15（6 9／3 5）8 芝浦工大

得	【日体】		【芝浦】	得
0	本田	GK	平野	0
0	大村	GK	渡辺	0
7	斎藤	FP	鈴木	0
1	亀谷	FP	明石	1
1	安達	FP	大江	0
0	串野	FP	木全	1
1	田中	FP	新実	3
3	高橋	FP	細江	0
0	氷海	FP	森	3
2	松原	FP		
0	中村	FP		
0	池田	FP		
18（3）		7MT		（0）8

早稲田群抜く全勝 東大2位に

▼2部

国士館 16（9 7／4 9）13 慶応
明星 17（10 7／7 10）17 防衛大（引き分け）
早稲田 31（17 14／2 3）5 東大
順天堂 29（16 13／10 1）11 東京学芸大
早稲田 17（6 11／5 7）12 防衛大
東京学芸大 11（6 5／3 7）10 慶応
東大 16（7 9／8 8）15 明星
国士館 21（12 9／6 8）14 順天堂
明星 29（20 9／7 8）15 東京学芸大
早稲田 23（11 12／5 8）13 国士館
防衛大 18（8 10／5 9）14 順天堂
慶応 24（11 13／3 8）11 東大
東大 16（10 6／7 6）13 東京学芸大
防衛大 16（9 7／5 8）13 国士館
早稲田 22（12 10／5 5）10 順天堂
慶応 19（10 9／6 7）13 明星
防衛大 11（7 4／5 4）9 東大
順天堂 21（8 13／3 9）12 慶応
東京学芸大 14（6 8／5 6）11 国士館

関東学生春季（男子1部）

	体	中	芝	法	立	日	教	明	勝	負	得	失
①日体	…	○	○	○	○	○	○	○	7	0	109	48
②中央	●	…	○	○	○	○	○	○	6	1	131	79
③芝工大	●	●	…	○	○	○	○	○	5	2	146	91
④法政	●	●	●	…	○	○	○	○	4	3	100	102
⑤立教	●	●	●	●	…	○	○	○	3	4	95	100
⑥日大	●	●	●	●	●	…	○	○	2	5	83	145
⑦東教大	●	●	●	●	●	●	…	○	1	6	60	104
⑧明治	●	●	●	●	●	●	●	…	0	7	88	163

【2部順位】①早稲田7戦全勝②東大4勝3敗③防衛大3勝2敗2分④国士館大 3勝4敗（得失点差－3）⑤東京学芸大 3勝4敗（－32）⑥慶応大2勝4敗1分（＋4）⑦明星大2勝4敗1分（＋3）⑧順天堂2勝5敗

早稲田 18（10－9 8－6）15 明星
東大 14（4－11 10－2）13 順天堂
早稲田 17（6－9 11－5）14 東京学芸大
慶応 9（5－2 4－7）9 防衛大
引き分け
国士館 27（13－14 14－9）23 明星
東京学芸大 13（7－5 6－6）11 防衛大
東大 13（5－8 8－4）12 国士館
明星 23（10－12 13－7）19 順天堂
早稲田 13（9－5 4－6）11 慶応

関東学院が首位飾る

▼3部
千葉商大 29－11 明治学院
茨城 19－6 上智
関東学院 12－11 独協
武蔵工大 15－14 東海
武蔵工大 15－7 独協
茨城 26－12 千葉商大
関東学院 19－9 東海
上智 9－6 明治学院
武蔵工大 22－10 千葉商大
独協 14－12 茨城
関東学院 11－6 上智
東海 27－9 明治学院
東海 11－8 上智
関東学院 18－11 明治学院
武蔵工大 15－11 茨城
独協 13（分）13 千葉商大
千葉商大 18－17 上智
東海 12－11 独協
関東学院 10－9 武蔵工大
茨城 24－8 明治学院
武蔵工大 10－9 上智
関東学院 8（分）8 千葉商大
茨城 16－15 東海
独協 22－4 明治学院
上智 18－12 独協
武蔵工大 11－9 明治学院
東海 23－17 千葉商大
関東学院 15－5 茨城

【順位】①関東学院大6勝1分②武蔵工大6勝1敗③茨城大4勝3敗（得失点差28）④東海大4勝3敗（16）⑤千葉商大2勝3敗2分⑥上智大2勝5敗⑦独協学園大1勝5敗1分⑧明治学院大7敗

千葉工大、千葉大降し優勝

▼4部A組
横浜商大 24－9 専修
千葉工大 25－6 青山学院
山梨 22－13 成蹊
千葉工大 13－8 専修
成蹊 不戦勝 青山学院
横浜商大 17－12 山梨
山梨 26－11 青山学院
専修 19－12 成蹊
千葉工大 19－11 横浜商大
専修 14－12 山梨
横浜商大 16－15 青山学院
千葉工大 12－11 成蹊
専修 14－5 青山学院
横浜商大 22－7 成蹊
山梨 13（分）13 千葉工大

【順位】①千葉工大②横浜商大③専修大④山梨大⑤成蹊大⑥青山学院大

▼同B組
都立大 21－9 東京理科大
一橋 14－4 東京農工大
千葉 18－14 流通経済
流通経済 24－17 東京農工大
都立大 16（分）16 千葉
一橋 17－5 東京理科大
東京理科大 12（分）12 東京農工大
千葉 11－7 一橋
都立大 22－16 流通経済
東京理科大 18－14 流通経済
千葉 23－7 東京農工大
都立大 19－16 一橋
一橋 18（分）18 流通経済
都立大 20－9 東京農工大
千葉 23－7 東京理科大

【順位】①千葉大②都立大③一橋大④流通経済大⑤東京理科大⑥東京農工大

▼同11・12位決定戦（2回戦制）
東京農工大 17－11 青山学院
青山学院 9－7 東京農工大
2試合のスコア合計24－20で東京農工大が11位、青山学院12位

▼同9・10位決定戦（同）
成蹊 17－11 東京理科大
成蹊 14（分）14 東京理科大
成蹊が9位、東京理科大が10位

▼同7・8位決定戦（同）
流通経済 18－12 山梨
山梨 22－21 流通経済
2試合のスコア合計39－34で流通経済大が7位、山梨大が8位

▼同5・6位決定戦（同）
専修 19－10 一橋
専修 14（分）14 一橋
専修大が5位、一橋大が6位

▼同3・4位決定戦（同）
横浜商大 17－15 都立大
都立大 23－14 横浜商犬
2試合のスコア合計38－31で都立大が3位、横浜商大が4位

▼同1・2位決定戦（同）
千葉工大 11（分）11 千葉大
千葉工大 13－11 千葉大
千葉工大が優勝、千葉大が2位

女子

日体大、〃関東〃のは権守る

◇4月22～5月2日、◇駒沢、◇参加5校

予想どおり日体大、東女体大が安定したチーム力で勝ち進み、最終試合で対決。

日体大は先制攻撃を奏効させ昨冬（11月・全日本学生決勝）の借りを返した。これで昭和36年秋の復活以来18シーズン連続優勝（通算22度目）

日体大 17（11－1 6－3）4 東京学芸大
東女体大 24（12－2 12－0）2 東京学芸大
日体大 8（2－1 6－1）2 日女体大
東女体大 15（8－3 7－1）4 東京教大
日体大 9（3－6 6－1）7 東京教大
日女体大 7（3－2 4－1）3 東京学芸大
東女体大 20（12－3 8－3）6 日女体大
東京教大 9（5－6 4－0）6 東京学芸大
東京教大 5（3－2 2－0）2 日女体大
日体大 8（4－2 4－1）3 東女体大

【東女】	得		【日体】	得
坂野	0	GK	秋間	0
		GK	大工原	0
中島	0	FP	高嶋	0
高橋	1	FP	岩本	1
堀江	0	FP	八木	0
川井	2	FP	永田	0
水上	0	FP	木村	3
阿野	0	FP	福田	3
永井	0	FP	嶋田	0
鈴木	0	FP	小貫	1
藤森	0	FP	佐藤	0
松田	0	FP		

8（1）7MT（0）3

【順位】①日体大4戦全勝②東女体大3勝1敗③東京教大2勝2敗④日女体大1勝3敗⑤東京学芸大4敗、（注）国士館大は棄権。

早稲田、明治降し昇格

▼男子各部入れ替え戦（5月12日駒沢）

▽1・2部
早稲田（2部）17（8－9 9－3）12 明治（1部）

▽2・3部
関東学院（3部）17（7－4 10－10）14 順天堂（2部）

▽3・4部
千葉工大（4部）20－5 明治学院（3部）

名城大、中京大破り初優勝

東海

男子

◇4月25日〜5月5日 ◇愛知県体育館ほか ◇1部6校、2部6校、3部5校。

第2日に常勝中京大が名城大に逆転負けする大波乱があった。中京大はこれまで20シーズン（10年間）に1敗（昭42春・対名古屋大、17－18）しか記録していなかった。名城大は41年秋に加盟、付属高校の有力選手の進学を軸にめきめき力をつけて来たチーム。ディフェンスの強さが勝因だ。

余勢をかう名城大はその後の試合も秀れた攻守で白星を重ねて全勝、宿願の初優勝を飾った。

2部は南山大が快勝（3度目の優勝）3部は県立三重大が圧倒勝ち（初優勝）しそれぞれリーグ戦後の入れ替え戦で昇格を決めた。

▼1部

中京 16（9－5 7－1）6 名古屋大

愛知教大 23（11－8 12－4）12 岐阜大

名城 9（4－5 5－3）8 中京

【中京】	得
GK 戸田	0
福井	0
FP 足立	1
吉田	1
高良	0
長縄	2
酒井	0
大谷	0
夏目	2
小川	0
成田	2
笹野	0

【名城】	得
GK 竹内	0
服部	0
FP 勝田	3
畑野	0
小島	0
平野	0
高橋	0
川口	4
飼沼	1
福田	0
阪野	0
後藤	1

9（1）7MT（0）8

（審・宇津野、角）

名古屋大 19（11－5 8－12）17 中部工大

名城 21（14－0 7－5）5 名古屋大

名城 26（12－2 14－5）7 愛知教大

中京 21（10－3 11－7）10 愛知教大

岐阜大 14（7－6 7－7）13 中部工大

名古屋大 17（9－5 8－4）9 岐阜大

中京 28（13－3 15－4）7 中部工大

愛知教大 27（13－8 14－7）15 中部工大

名城 20（9－4 11－3）7 岐阜大

名城 30（15－2 15－1）3 中部工大

中京 29（13－1 16－4）5 岐阜大

名古屋大 16（8－5 8－5）10 愛知教大

【順位】①名城大5戦全勝②中京大4勝1敗③名古屋大2勝2敗④愛知教大2勝3敗⑤岐阜大1勝4敗⑥中部工大5敗。

▼2部

南山 19－13 名古屋学院

名古屋学院 17（分）17 名古屋工大

三重大 22－18 静岡大

南山 22－9 滋賀大

南山 19－10 名古屋工大

三重大 17－10 滋賀大

名古屋学院 21－16 静岡大

南山 20－11 三重大

名古屋学院 24－10 滋賀大

静岡大 19－11 名古屋工大

名古屋工大 17－6 三重大

静岡大 30－8 滋賀大

南山 24－18 静岡大

名古屋学院 18（分）18 三重大

名古屋工大 18－7 滋賀大

【順位】①南山大5戦全勝②名古屋学院2勝1敗2分③名工大・三重大2勝敗1分⑤静岡大2勝3敗⑥滋賀大5敗。

▼3部

県立三重大 25－8 大同工大

名工大2部 9（分）9 愛知大

名工大2部 21－9 大同工大

県立三重大 19－11 愛知大

愛知工大 17－3 名工大2部

愛知工大 31－11 大同工大

県立三重大 30－11 名工大2部

愛知大 15－14 愛知工大

愛知大 19－11 大同工大

県立三重大 18－12 愛知工大

【順位】①県立三重大4戦全勝②愛知大2勝1敗1分③愛知工大2勝2敗④名古屋工大2部1勝2敗1分⑤大同工大4敗

中京大、中京女大に連勝

女子 は中京大と中京女大だけの出場で両校が2試合（4月29日5月5日）を行なった。

第1戦は接戦となったが中京大が辛勝、第2戦も中京大が後半に地力を示した。中京大の優勝は8シーズン連続9度目。

なお松阪女大はしばらく休部、新加盟の愛知教大は秋季から登場の予定。

中京 12（6－5 6－6）11 中京女大

中京 12（6－4 6－2）6 中京女大

南山、三重大ともに復帰

▼男子各部入れ替え戦（5月9日南山大）

▽1・2部

南山（2部）15（8－5 7－8）13 中部工大（1部）

南山大は1季で1部へ復帰

▽2・3部

三重（3部）21（10－5 11－9）14 滋賀（2部）

同志社、4季ぶりの優勝

2位に大阪経大が初進出

関西

男子

◇4月26日〜5月16日、◇大経大ほか ◇1部6校、2部6校、3部6校4部9校。

1部はオリンピック候補中井をエースとする同志社が圧倒的な強さを示した。第4日を終って同志社のみが4勝をマーク、得失点差もプラス47と最終戦を待たず首位を確定づけ、関学戦も危気ない試合ぶりで4シーズンぶり14度目の優勝となった。

2位には1敗の大阪経大が初めて進出した。名門関学、関大はメンバーの不足からまったく元気がなく、甲南大とともに1勝をマークしたにとどまり、得失点差で4〜6位を決めた。

前季優勝校で過去25回の優勝を誇る関学は故障者の続出で危うくテールエンドにおちるところだった。2部は大阪体大が4勝1敗で同率の神戸大を得失点差で上廻り2度目の優勝、入れ替え戦にも勝った。3部は昇格したての京産大が全勝、天理大を加えて9校に増えた4部は近畿大の初優勝で終った。（2部以下の試合記録は次号）

関学 14（5―7 9―4）11 甲南
大阪経大 22（9―3 13―7）10 桃山学院
同志社 16（7―3 9―3）6 関西大

関西学生春季（男子1部）

	同	経	桃	関	学	甲	勝	負	得	失
①同志社	…	○	○	○	○	○	5	0	105	43
②大経大	●	…	○	○	○	○	4	1	95	71
③桃山学	●	●	…	○	○	○	3	2	73	63
④関西大	●	●	●	…	○	●	1	4	58	70
⑤関　学	●	●	●	●	…	○	1	4	52	93
⑥甲　南	●	●	●	○	●	…	1	4	51	94

【2部順位】①大阪体大4勝1敗（得失点差48）②神戸大4勝1敗（39）③京都大3勝2敗④大阪大2勝3敗（－15）⑤立命館2勝3敗（－36）⑥大阪外語大5敗

甲南 11（6―4 5―5）9 関西大
同志社 19（11―7 8―1）8 桃山学院
大阪経大 22（10―4 12―9）13 関学
同志社 27（12―4 15―3）7 甲南
大阪経大 16（9―5 7―9）14 関西大
桃山学院 16（9―2 7―4）6 関学
桃山学院 22（10―3 12―4）7 甲南
同志社 19（9―9 10―4）13 大阪経大
関西大 20（10―5 10―5）10 関学
同志社 24（13―5 11―4）9 関学
大阪経大 22（12―5 10―10）15 甲南
桃山学院 17（7―3 10―6）9 関西大

3部京都産大、4部は近大

【3部順位】①京都産大5戦全勝②追手門学院4勝1敗③大阪府立大3勝2敗④和歌山大2勝3敗大阪薬科大1勝4敗⑥大阪市立大5敗

【4部順位】①近畿大7勝1分②京都教大⑥勝1敗1分③竜谷大6勝2敗④大阪工大5勝3敗⑤大阪教大4勝4敗⑥京都工大3勝5敗⑦大阪歯科大3勝5敗⑧関西外語大1勝7敗⑨天理大8敗。

女子

甲子園大、大体大を降す

◇4月25日～5月10日、◇大府大ほか。◇5校

3勝同士の甲子園大、大阪体大が最終日に対戦前半は互いにゆずらぬ接戦となったが、攻撃力にまさる甲子園大は後半巧みな試合運びでリード、2連勝した。新加盟で3位の夙川短大（兵庫）の健斗が注目された。武庫川大は不参加。

大阪体大 21（10―1 11―0）1 大阪薬大
甲子園大 17（9―0 8―2）2 夙川女大
夙川女大 11（3―2 8―4）6 大阪薬大
甲子園大 30（13―2 17―1）3 大阪教大
甲子園大 29（18―1 11―0）1 大阪薬大
大阪体大 18（11―0 7―2）2 大阪教大
大阪体大 11（7―2 4―7）9 夙川女大
大阪教大 8（2―0 6―2）2 大阪薬大
夙川女大 15（6―1 9―7）8 大阪教大
甲子園大 10（3―3 7―4）7 大阪体大

【順位】①甲子園大4戦全勝②大阪体大3勝1敗③夙川女短大2勝2敗④大阪教大1勝3敗⑤大阪薬大4敗。

九州

鹿児島大、西南の7連ぱ阻む

◇第8回全九州学生選手権（トーナメント）◇5月16、17日、◇鹿児島工高球技場 ◇参加11校（男子のみ）

ベストフォアには順当な顔ぶれが勝ち進んだ。

7連勝を狙う西南学院は不安定な試合ぶりながら決勝に残り、地元・鹿児島大と対戦。鹿児島大は秀れた攻撃力で立ちあがりから優位に立ち、守っても早いつぶしで西南の反撃を封じこの大会で初優勝を飾った。九州学生のタイトル獲得は43年秋の九州大学体育大会に次いで2度目のこと。

▽1回戦
宮崎 18（7―7 11―7）14 東海
九州大 17（9―7 8―7）14 長崎
九州産大 20（9―6 11―9）15 熊本

▽準々決勝
西南学院 15（11―6 4―5）11 宮崎
福岡工大 12（5―6 7―4）10 熊本工大
九州大 20（2―8 11―9）17 熊本商大
鹿児島大 19（11―1 8―5）6 九州産大

▽準決勝
鹿児島大 23（11―4 12―6）10 九州大
西南学院 19（10―7 9―4）11 福岡工大

▽3位決定戦
九州大 14（8―4 6―8）12 福岡工大

▽決勝戦
鹿児島大 19（9―3 10―4）7 西南学院

日体大―ワクナガが定期戦

学生・実業団の有力チームの対戦―実業団球界の拡充でこれまでにも当然考えられてよい企画であったがなぜか実現していなかったその〝第1戦〟ともいうべき試合が5月8日午後6時から大阪市中央体育館で日体大とワクナガ薬品の間に行われた。

日体大は全日本学生のチャンピオンチーム、ワクナガは創立2年目とはいえ木野、早川の両オリンピック候補をはじめ東西学生界出身のそうそうたるメンバーを揃えた実業団の新星。

観客は千人たらずだったが全日本総合選手権の実力展望にもつながる注目のカードにふさわしい好試合を展開、成果をあげた。

プログラムには「第1回定期戦」と銘打たれ、今後は東京、大阪で毎年交互に開くというが大学・実業団の定期戦も初めてのこと。今後の発展が注目されよう。日体大・稲生マネジャーは「強者同士の対決でファンを呼び、できることなら競技収入も企りたい」と意欲的である。

この一戦をきっかけにして学生のトップチームと実業団の有力チームの交流が〝流行〟になるかもしれない。

▼第1回日体大―ワクナガ薬品定期戦

日体大 16（8―8 8―6）14 ワクナガ薬品

	【ワ薬】	得	【日体】	得
GK	松田	0	本田	0
GK	今井	0	大村	0
FP	市原	2	斎藤	2
FP	木野	3	亀谷	1
FP	早川	1	安達	3
FP	森	2	串野	0
FP	高橋	4	田中	3
FP	戸田	2	高橋	3
FP	馬野	0	池本	2
FP	松井	0	氷海	2
FP	久保	0	松原	0
FP	藤井	0	佐藤	0
		14		16

（審・前田、新村）

世界選手権リポート

改めて「力」の増強を痛感



村田弘
（全日本男子監督 オリンピック対策部長）

「日本10位、ルーマニア2年ぶり3度目の優勝」。オリンピックの出場権という重大な使命を持って出場した我々……。ハンドボール関係者の大いなる期待と選手団のベスト8入りの意慾は燃えていた。然し結果は10位に決定使命を全うできず期待を裏切り申し訳なく思っております。然し10位という成績を甘んじて受けなければならなかった、と云うのはヨーロッパの実力は厚くそして高いと云う言葉につきるのである。

今回の日本チームの実力をIHFの役員及びヨーロッパの関係者は非常に高く評価していることはよろこばしい限りである。

ベスト8に入れず、すっきりとしたオリンピック出場権は獲得できなかったが〃10位〃とその実力は今後に有力な資料となったことは間違いない。

吾々選手団は目的達成のため次の5項目に重点をおいた。

(1)気力の充実。即ち〃やる気〃
(2)チーム、ワークの良さ〃和〃
(3)忠実なプレーで〃ミスをしない〃
(4)体力を生かした防御。〃失点を少なくする〃
(5)素早さと正確で変化に富むハンドボール

〃日本の特徴〃を生かす

試合結果等は機関誌で見て頂くとして、全体的な反省をしてみます。

昨年ヨーロッパ遠征から帰国した折の座談会で私はチェコ、日本ユーゴが三巴になり米国（その当時はカナダの出場が予想された…）との得点が鍵になるケースが充分考えられると申しました。三つ巴にこそならなかったがユーゴと引分け、結局米国戦が鍵となったユーゴ戦は内容的に追いあげ、押していただけに、残念というか無念というかあと1点に泣きました然し考え方を変えてみるとあのユーゴによく引き分けたものだ。

大きな欠点をいえば次の三つがあげられる。

(1)試合開始後得点に気が走り防御が悪く、特にポストが浮いた。
(2)3回も同点機をもちながらリードできなかった。
(3)シュートミスがあったことなどがあげられる。

過去予選リーグで第4回大会全敗、第5、6回大会各1勝、そして今回が1勝1分1敗と向上している。次に来るべきものは2勝であり上位入賞ということになる。

12年前、第4回世界選手権に参加し、日本チームを指導した西ドイツの名門ギョッピングのトレーナー、ケンパ氏（昭和32年西ドイツの一員として来日、一九五二年世界選手権最優秀選手）はその当時日本チームを次の様に評価した。『日本チームがヨーロッパチームにとって、まもなくあなどるべからざる好敵手になるだろう。』と。今回彼が我々のゲームを見て、その時機がやってきたことを非常によろこんでいた。

IHFの技術委員ペライ氏（西ドイツ国内でミスターオリンピックのニックネームを持つ体育人）は我々と逢うと『ミュンヘンでは日本の頭上に太陽が輝く』とお世辞を云った。それだけ日本チームは著るしい進歩を遂げたし今後も全力を傾注しヨーロッパの最高水準迄にのし上るべき宿命に立たされ、又それに向って最善の努力をはらわねばならない。

心技充実のルーマニア

優勝したルーマニアは優勝すべくして優勝したといえるが、第4回大会で第2延長の大接戦の勝ち第5回も連勝、第6回大会は優勝する力を有しながら準決勝で7mTを失敗してチェコに敗れ今回はこの雪辱を期していただけに、輝しい優勝は実に立派なものだった。

昨年私達がルーマニアに遠征しその時に対戦し、又この目で見たルーマニアチームとはうって変ったチームに脱皮していた。この6ケ月間、選手権を目指し協力一致猛練習を積み重ねた結果といえよう。

準々決勝、優勝戦に示した実力は世界のNo.1にふさわしい精神力、スピードと技術及び戦術を充分持ち合わせていた。

第2位の東ドイツは第6回大会予選リーグでルーマニアと引分けベスト8入りができず、今回を目指し、3年間隠忍自重し、その力が爆発し、第2位となったのはみごとであった。準々決勝の西ドイツ戦で第2延長の末勝利を納めた時の興奮は恐るべきものがあったそして準決勝ユーゴに勝ち優勝戦に駒を進めた力強さと調子の波に乗って優勝戦も後半中項までルーマニアに対して優勢に戦い第2延長まで持ち込んだが、ルーマニアの貫録に屈した。チームはよく洗練され特に防御、攻撃の力強さはバランスが取れていた。

優勝候補にあげられていたユーゴの3位も今回まで上位入賞をしていないだけによくやった。特に3位決定戦は恐るべきものがあった。前回2位のデンマークも特徴ある攻撃法、特にポストプレーに見事なものがあり堅実に勝ち進み4位となった。

西ドイツは準々決勝で東ドイツに敗れはしたがその実力は世界のトップクラス。特にハンドボール

技術は卓越したものがあり、選手層の厚さと地元の利でミュンヘンオリンピックの最右翼といえよう
5位決定戦は前回同様西ドイツースウェーデンが対戦し力のこもった接戦を演じ1点差で5位西ドイツ、6位スウェーデンとなった。スウェーデンも5回大会まで優勝2回を含め上位入賞ばかりで、前回は若返りを図り、やっとそれが実ってきた感がする。特に体格面では最高を示している。前回優勝のチェコはルーマニアについで優勝候補の二番手にあげられ綜合力に於ても他のチームより勝っていたが第7位に終った。ちよっとしたつまづきが敗戦に導いたのである。8位ハンガリーのリズミカルな攻撃力も秀れていた。前回4位のソ連は力強い。ジャンプ力のすばらしさでゴールになだれこんでくる破壊力は実にすごかった。然し予選A組で3つ巴となり、大きい番狂わせでベスト8に残れず9位に終ったことは今大会の一大センセーションであった。

予選リーグが終り準々決勝からのゲームは強烈きわまりない内容であった。特に準々決勝を勝ってベスト4に残るのと、残らないのとでは大きい差がある。各国は準々決勝に勝つことに大きなポイントをおく。どのゲームを見ても2点差以上開いていない。

又予選リーグの1位のチームが全部敗れ2位のチームがベスト4に残ったことも、その意味がよくうかがわれる。チェコが準々決勝でデンマークに敗れたのは予選リーグのユーゴ戦に主力を休ませなかったのが最大の原因だとケーニッヒコーチ（チェコ）は反省していた。

技術的なことをあげてみると第1位のルーマニアから9位のソ連まで、どのチームが優勝してもおかしくないし又第9位になっても当然と云える。ちよっとした作戦ミス、技術ミスがその結果を生むのである。日本チームがこれらの国々と対戦し互角に戦い勝利をもたらす為には国内の強化を図り、力強さを増す以外にはないと云えよう。

国名	平均年齢	身長	体重
ルーマニア	25.7	185.2	82.2
東ドイツ	27.9	182.2	80.2
ユーゴ	24.3	183.8	81.2
デンマーク	26.3	185.2	83.3
西ドイツ	24.4	184.0	80.3
スウェーデン	25.4	187.2	82.7
チェコ	26.4	180.0	80.3
ハンガリー	25.6	185.5	81.1
ソビエト	27.1	182.2	78.7
日本	23.8	179.0	71.9
アイスランド	23.8	184.5	79.0
フランス	25.3	181.7	80.7
ノルウェー	25.4	185.3	81.0
ポーランド	24.6	183.2	80.8
スイス	25.4	181.5	79.4
アメリカ	25.9	182.8	79.8
平均(16ケ国)	25.5	183.2	81.5
GK平均	26.2	183.3	79.3

打開すべき今後の課題

一、年令と選手層

表が示すように平均年令は25.5才でスポーツマンとしての最高の体力を維持できる年令といえる。ヨーロッパでは子供の時からハンドボールに親しみ、長い経験と体力が相まって優秀なプレーヤーが育っていくのである。

その点日本は経験と体力的問題がアンバランスになっている。今後この問題を打解してゆくためには、ハンドボールを普及し、早くからやらせることと、学生時代だけでなく、社会人となっても練習を持続し選手寿命を長くできる環境を作っていかねばならない。

選手年令と平行して云えることは選手層の問題である。

各国ともナショナル選手は20～30名いて、その中から選び出されているので、エントリーの16名は主力選手数名以外は殆んど実力が変らない。相手チームを考え、又勝ち進んでいく戦術として、その日のゲームに出場する選手を決定する。なにしろ9日間に6ゲームを移動しながら行うので、主力選手も何処かで休ませねばならない選手層の厚さが体力と相まって戦力に大きく影響することは云うまでもない。予戦リーグでベスト8入りが決定してしまうと、1位、2位になるより準々決勝に勝ってベスト4入りをねらうため主力選手を休ませる。それだけの余裕は選手層の厚さを物語る。又同じゲームにしても10名が平均にメンバーチェンジをして出場する。それによって作戦を変え、選手の体力保持を考えるのである。日本国内のゲームを見ても殆んどが選手7～8名でその大会を乗り切っている。これも同様選手層の問題で同じクラスの選手を多く育て、ゲームにのぞむときこそ、強力チームとなろう。

今回日本チームは左利きを持たずに参加したが戦術的に左と云う特異性を考えて入れなければならない。ヨーロッパではチームに3～4名の左利きを持っている。

二、体格と体力

別表のうち体格の欄をみてほしい。身長から100を引いて体重と比較したとき、外国は2～3であるが日本チームは7という差がある

これは体に巾があり体力を意味する。防御の壁の分厚さを物語るわけだ。防御体力、攻撃に於ての突進力、爆発力、スピード力を左右している。日本チームも今後一層体格を充実させたい。然し体格のみ秀れてよいのではない。動き廻る体力の持続性、敏捷性を身につけたとき、体格が生きてくることを忘れてはならない。体が小さくとも秀れた特殊技能を持っておれば立派に世界に通じる。その証拠に近藤、野田選手が立派に通用している。その他ルーマニアのガッツ（175）、モルドバン（174）、東ドイツのチンマーマン（175）、チェコのコネクニー（175）、マロシー（175）、カバン（175）、ソ連のソロムコ（172）、シアイユク（174）等は主力選手で非常に機敏だ。防御もよく、体格の大きい中に入ってその特殊技能を慣感なく発揮し、相手チームに脅威を与えている。

彼等は自分の持っている体力を大切に保持し必要なときに爆発させ、スピードで動き廻っても、へばらない持続力を持ちあわせている。又身体が柔軟で、強いバネと手首の強靱さは日本と比較にならないぐらい抜群である。瞬発力もよく、爆発的プレーの厚動力となっている。彼等のたくましい肩巾厚い胸、太い腕節は鍛え抜いた練習の賜である。各国とも体力づくりを技術練習の中に取り入れて行っていることが窺われる。日本チームは後半中項を過ぎると急に体力が衰え始め、プレーが雑になりそこをつけこまれるケースがあった。今後は体力の持続性を考えて技術練習の中にスタミナ重点のトレーニングを計画せねばならない。

三、精神力

スポーツ勝敗の基礎となるものは精神力であるといっても過言でない。いつも云っていることだがヨーロッパ勢のゲームに対する執念、根性は口先だけのものでなく原子力的な恐ろしいものをもっている。一時間中コートを走り廻って戦うのだから肉体的なスタミナと同時に極度に精神的スタミナを消耗する。その精神的スタミナというものはどうしてでき上るかと云うと、練習、練習、練習によって礎きあげられることを忘れてはいけない。選手権のどのゲームを見ても感じることは気力である。特に印象に残っているのは優勝戦のルーマニア対東ドイツであった3年に一度の決勝戦とあって、3年間猛練習によって、ためにためたものが一気に爆発した感じで筆舌に絶するものがあった。然しそれは洗練され、美しく立派であった。

日本チームも今後ヨーロッパの強豪を倒すには精神力の向上であるといっても過言ではない。ナショナルチームだけでなく国内のどの指導者も選手もすべて精神力が大切であるから、口先だけに走らず実行にうつしてもらいたい。又ボールに対する集中力、判断力も精神力の問題であって、精神的なスタミナが悪くなると大いに影響する。気力にはやり過ぎて防御において、激しいプレーが見受けられるが、ゲームには激しさがないと面白味はないし勝てない。その激しさは精神力だ。

四、基礎とシュート力

どのゲームを見てもミスが少ないということは基礎が完成されていることを意味する。卓越した個人技と機械のように正確なパスキャッチ、スピーデーにプレーをしていることは大いに学ばねばならない。基礎の重要性は誰れも承知であるが徹底的に身につけておかないとゲーム中にミスがおこる。最近日本の練習を見ていると、コンビネーションに走り基礎練習を軽視している傾向がある。その点ヨーロッパの練習は基礎の繰り返しと云った感じで、それが体力トレーニングをも兼ねている。又彼等の体格、体力の優位から生ずるボールコントロール、殆んどボールを完全に片手で握ってプレーする。だから何処からでも、どういう姿勢からでもパスができる。フエントプレーが自由自在となりトリックパスが多い。このような身体的な条件は日本人より有利でプレーに大きく影響を及ぼしている基礎的問題で一番差を感じるのは勝敗を左右するシュート力であるスピード、力強さ、確実性、気力の充実があげられる。前途したようにボールを片手で完全に握ってシュートできるので、シュートフエントの威力が大きい。シュートはどんな困難な条件の下でも決める勇気、決断力、技術が必要である。日本のシュートは力強さが欠け、執着心にも欠けるものがある確実性だが、決めないと相手に乗ずる隙を与え、味方の意気込みを消失する。シュートすればゴールインするという精神を養っていかねばならない。シュートアベレージをよくすることが重要である。

今回の選手権で日本チームはシュートで苦しんだ。今後日本でもやらねばならないことはロングシュートを打つこと、打って決める訓練をやらねばならない。ロングシュートを打つとこによってポストが生きてき、相手の防御にミスが起ってくるのである。日本のシュートで成功したのはタイミングをはずしたシュートとクイック的シュートでありこれはヨーロッパ各国も注目するほどの効果をあげ非常によかった。

五、防御力

ハンドボールは防御だ、体力だ頭脳だというが今度の選手権で防御が一番印象に残った。防御の出来、不出来が勝敗を左右するのである。攻撃体力より防御体力の方が勝っていなければならない。即ち攻撃に休みはあっても防御には休みがない。体力以上に防御には精神力が必要である。守りに徹すると精神的に疲労が大きい。表を見ても判るが特に今回は失点が少なかった。これも各国とも防御力

世界選手権
個人身長

198cm	スババルソン	（アイスランド）
197	グネス	（ルーマニア）
	クラナト	（チェコ）
196	ヤクセコビク	（ユーゴ）
	アンデルセン	（スウェーデン）
	メルセル	（ポーランド）
	マグヌソン	（アイスランド）
195	シュミット	（西ドイツ）
	P・ニールセン	（デンマーク）

※190cm台は43名

169cm	野田	（日本）
170	近藤	（日本）
171	フクハカーゼ	（ソビエト）
172	ソロムコ	（ソビエト）
	ブラセル	（スイス）
173	デュブス	（スイス）
	サンティーニ	（スイス）
174	モルドバン	（ルーマニア）
	M・ニールセン	（デンマーク）
	シャイユク	（ソビエト）
	クリムシク	（チェコ）
	ノッター	（スイス）
	キーネル	（スイス）

（数字は仏スポーツ紙“レキプ”による
＝本誌調べ）

第3回～第7回平均得失点を探る（数字左は得点、右は失点）

	予選リーグ	決勝トーナメント	優勝チーム	日　本
第3回	25.3—11.3	19.8—12.4	28.5—12.6	…………
第4回	21.4—11.0	14.4—11.1	14.5—11.0	10.5—33.5
第5回	19.8—11.0	20.6—14.7	22.9—14.0	13.3—30.0
第6回	23.1—13.6	17.3—14.1	20.5—12.1	24.3—28.0
第7回	16.8—11.5	15.2—12.7	15.2—11.0	6試16.8—18.0 予選15.7—17.0

が強力になったことを物語っている。強力国の防御は個人の防御技術も力強いが組織力が秀れていた絶えず動き廻り、相手の早い動きに対し見失うことなく、自分のゾーンの相手に対しマンツーマンで執拗にボデーチェックを行なう。特に危険な地域の攻撃者に対して早いうちにその地域から追い出している。又動きの早い相手に対しフォローをよくしなければほんろうされ防御が後手に廻りシュートされる。この点日本の防御はエリア前に列んだ人形といった感じだもっと動き廻り相手を思う位置に動かさないようにしなければならない。又よく7mスローをとられるが7mスローを少なくするためには危険地域に入れる前に止めるべきであるそうするとフリースローで済む。

特に今回は各国とも変った防御システムはなく6・0、5・1で相手によって変化していた。ユーゴは3・2・1を採用したが日本の時は6・0を採り、後半になって3・2・1を布いた。

六、攻撃力

ハンドボールすべてそうだがリズムの良し悪しがその結果に大きく影響するものである。その点一番影響するのが攻撃リズムであるまず第一にスピードだ。スピードに乗ったテンポの早いボール処理によって相手の防御陣に余裕を与えず防御ミスを大きくして好機を見逃さず、最終段階に入る。又防御体制から速攻への移行が早く、あっという間にゴール前に攻めこんでくる。そうしたリズムが非常によい。

〃点数のとれる攻撃〃即ちコンビネーションプレーに計画性がある。走るべきときに走り、ブロック、ポストプレーを多く使ってスピードある組織活動は変化に富んでいて、フォローが非常に良い。又チームプレーの中に個人個人の独特のテクニックが生かされている。

速攻を最も有効な攻撃手段として使用している。又攻撃の安全性をよくわきまえ勝負どころ以外は無理をしない。速攻以外はボール持保を長くして、相手の防御ミスにつけこんでシュートに入る。フリースロー攻撃もポイントに結べる研究をよくやっているとシュートの確率が非常によい。

各国が攻撃に特色を持っている日本チームの攻撃もボール廻しが正確でテンポが早くなったことは非常に進歩したが余裕がなく計画性に欠けている。

相手を見て変化のある独特のカラーを打ち出すことを必要とするしそれがリズムの良さにつながりロングシュートにも結びつける攻撃力を持たねばならない。

七、ゴール・キーパー

スピードボール、力強いシュートに対する練習を積んでいるのでそれに対する反射神経がするどいボールをはじく気力もすさまじいシューターに対する〃つめ〃が非常によいのとF・Pの連繋した組織活動が生き生きとしている。大きい体格と体全体を使ってボールをはじき出しているのに対し、日本のGKは手でボールをおさえようとするから手に当っても重いボールのためゴールインしてしまう腕身体全部を使ってボールをはじく練習をやらねばならない。G.Kの技術もF.Pのシュート力と相互関係にあるのでG.Kの技術向上はシュート力を増す。

最初の攻撃者としてのボール出しの速さ、判断力、正確さは日本と大きな差がある。特に第一番の攻撃者の出来、不出来がポイントにつながるケースが多い。

日本のG.K技術の向上はF.Pの技術向上に直結するものであり逆も云えるから相互競いあって、磨いてもらいたい。

八、戦　術

秀れた勝ち戦術が計画されている。9日間に移動も入れて6ゲームを遂行していくために、色々な面を考えて戦術がつくられるのだ

選手の状態、特に健康状態についてはチームに必らずドクターが同行して、検査を行ないトレーナーに報告される。主力選手を休養さすことも重大な戦術になる。選手のゲーム中の交替も戦術上色々な意味で適応している。対戦チームの状態をあらゆる方面からデーターを集め、綿密に調べてミーテングされる。今回だけでなく将来のためにも数多くの研究員が派遣されて、色々なデーターを集めているのも感心した。

攻撃、防御戦術も結果的によければよいので、どの戦術が最良であるか必ず勝利をもたらすものであるか断定はできない。彼等は、相手、戦況によって、刻々と戦術を変えている。

九、協力体勢と国内のレベルアップ

各国とも三年に一度の選手権にそなえて、国内の強化の為、協力体勢を整えている。ルーマニアの優勝もただ選手の活躍だけでなくそうした環境、関係者の協力体勢が大きな力となったのである。又日本も地理的に悪条件にある中で国際試合の一番大切な経験を積む意味で昨年2ケ月間の長期の遠征を計画、実行し、今大会、又ミュンヘンに向っての協力体勢は大いに有意義であったと云えよう。その結果が今度の10位をもたらしたと云える。

又忘れてならないことは如何に優秀なナショナルプレーヤーも総べて国内のチームから選び出されているのである。関係者が国内のハンドボールのレベルアップを図り、国内の強化を図ることによって世界に立ち向える近道となるだろう。

最後に今度の世界選手権に対し協会あげて協力体勢でのぞんでいただいたことに深く感謝するとともに、各方面よりの物心両面の御援助に深く感謝いたしております

今後も日本のハンドボールの地位を高め、ミュンヘンの上位入賞を目指して頑張ってゆく覚悟でおります。今迄以上の御指導御鞭韃を頂けることを念願と致しております。

（完）

お詫び　本誌前号29頁全日本学生男子出場校割り当て数のうち▽東北・北海道3▽関東9の数字が抜けていました。

◎ ヨーロッパ遠征リポート

多彩なデンマークの攻撃

下里敏彦

雪が花を咲かせ、外は寒さで頭の中まで凍るよう。昼間だというのにうす暗く静かで何かこわい感じのする街だ。

今回の遠征でデンマークでの試合は親善、合宿世界選手権の調整など多くの意味をもっていたと思う。

しかし、日本チームの成績は3戦2引分け1敗と振るわなかった

これは、時差などの関係で体調が不充分だったことも原因だろう

デンマークの各チームはヨーロッパ特有の「8の字」からの攻撃をあまりみせず、タテに強引な切りこみとポストシュートそれにサイドからのプロンジョンシュートなど多彩であった。

日本はディフェンスにおける当りが遅く、そのために腕をうしろから引っかけて7Mスローをとられることが多く、3試合で30本も課せられた。

ディフェンスの強化は全日本の課題といわれつづけて来たことだがまだまだ力強さが乏しいことを強く反省させられた。

GKは、前回の世界選手権で最優秀キーパーとなったホルストがすでに第一線を退いたとかでその妙技は〝過去のもの〟になったが各選手とも左右によくとんでクリアしていた。

GKの美技のたびに観衆から盛んな拍手が湧きおこって調子の波にのり日本チームのシュートはいっそうカモられてしまうしまつだった。

もう少しタイミングを考えてシュートを射てばよかったように思う。

離日後最初の訪問国とあってコンディションもととのわず、しかも久しぶりにヨーロッパチームとの対戦でとまどう面もあり、デンマークでの3試合はわれわれは実力を出し切れなかった。

もしベストコンディションであれば3試合とも勝ち星をあげることができただろう。

吹雪のなか、汽車でデンマークに別かれを告げ西ドイツ（ハンブルグ）に向かった……。（GK・大崎電気工業）



（写真）デンマークでの第1戦から。飯田選手の攻撃

ハンブルグ（西独）滞在記

本田洋

デンマークでの三戦は、思い通りゆかず、大会までの準備期間も残りわずか。何としても初勝星をあげねばならぬと勇んで、雪のハンブルグ駅に到着したのは午前十二時であった。重いトランクと手さげカバンをさげて、駅から約五百メートル離れたホテルに到着する。早速、昼食をとる。ハンブルグ協会は、細かい計画と準備でもって迎えてくれた。昼食後、試合までの時間を休養する。寝ることが一番必要とされた。午後五時半夕食の後、ミーティングを行ない必勝の念に燃え、会場の体育館へ臨む。体育館は大きく、観衆は行儀よく、熱心であった。ハンブルグ選抜との対戦、十三対十二、始終、日本のリードで勝っていながら、一点差で終ったのは、まずかった。勝てる相手には徹底して勝つ厳しさが欠けているのを強く反省する。午後十時からのレセプションは、厳粛にして、かつ、楽しい一時であった。ドイツ人の雄弁には頭が下がる。就寝は、真夜中を過ぎていた。翌日は、休養の一日、午前中、ハンブルグの町で買物、空は、どんより曇り、肌寒い舗道を急いで歩きまわった。昼食は市内見物の途中、ハンブルグの港で食べる。一杯のビールの味は忘れられない。午後はホテルで睡眠、全員、よく眠る。午後七時、ハンブルグ協会の厚意を受け、娯楽観賞、ショー見物、2時間半、歌手、踊り子、道化師、手品師と盛り沢山で変化あり、言葉は判らないが笑いが耐えない。ショーが終っても、出口に殺到せず、ショーの余韻を楽しむかのように席に座って順を待つ風景は、ドイツ人ならではの姿であった。翌朝、ハンブルグを出発し、ブランスウェイグに向う。（GK・日体大4年）

◎

西ドイツ二番目の訪問地ブランスウェイグはハノーバーに近い町だ。ハノーバーといえば、一九二一年、近代ハンドボール規則にのっとった世界初の公式試合として全独選手権の行われたハンドボールには由緒ある土地である。

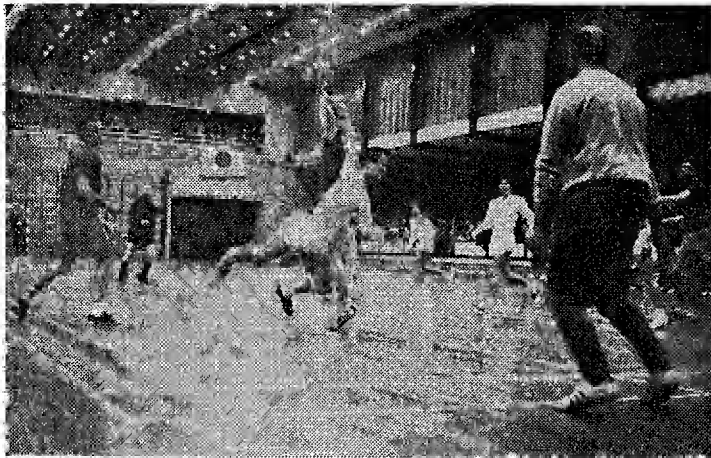
ハンブルグから森の中を貫く一直線のバス・ツァー。ところどころに雪が残る。3時間近くで着く。

町は格調の高い建て物が並び雪景色の中に〝歴史〟を感じさせる

試合の相手は地元の警察クラブが主体。地区リーグの上位の実力とかだった（24—22で勝）。チェコのトレーナー、主力選手が偵察に来場するなど〝世界選手権近し〟を思わせ緊張した。（中井武三・遠征日誌から）

オランダ転戦
日本のペースで3連勝

野田　清



我々選手団は選手権後、オランダナショナルチームと対戦するため風車、チューリップ等で有名な水の国オランダへやってきました

選手権後の各国ナショナルチームとの対戦で勝利を得ることは選手権10位の日本の地位を不動のものとし、ミュヘンへの出場権の足固めをする意味においてもきわめて重要なことであった。このため我々は新たなフィットを燃やしてナショナルチームとの対戦に臨みました。結果は18−17、23−17、23−15と3連勝でわれわれは世界のトップクラスの実力を示し得たものと思っています

オランダのハンドボールはデンマーク、ドイツの流れを組んでおり、攻撃の主体はサイドから廻りこんでくるローリングであり、このローリングを利用してロングシュート、ポストプレーを活かしてきた。だがデンマーク、ドイツとの違いは速攻がほとんどなかったことである。このことは日本のディフェンスを有利にし逆に、日本チームの攻撃の中心である速攻、セットオフェンスにゆさぶられる結果を招き失点を重ねていた。日本チームとしては持前の足で相手ディフェンスをくずし攻撃の糸口をみつけていったのが大きな勝因となった。

しかし、オランダも西ドイツ、デンマークからコーチを招いてチームの強化にあたっているので、オリンピック予選を勝ち抜いてくるのではないかと思われる。（FP・大同製鋼）

【写真はオランダ第1戦から。近森選手の攻撃】

熱狂的なローマの観衆

近森克彦

ローマ空港に到着してまず我々を襲ったのは荷物を持ち去られるのではないかという不安でした。というのもイタリアではよく盗難に会うとの実話も多かったことでおよそ空港に似つかわしくない人がうろうろしていたのにはやはりという感じと同時にそれには閉口しました。が、ローマの街はそんなこととは別に素晴しいところでした。ローマ時代を偲ばせる古代の遺跡、洋画によく見られる場所等、我々が既に雑誌等の書物で知っているものばかりでしたが、実物はやはり我々を感嘆させました

ローマも近代都市への脱皮しているため、古代と現代のアンバランスはありましたがその調和も見事でした。

イタリア（ローマのみでしたが）は2泊3日、試合も一試合、ローマオリンピックのバスケットボール競技会場、勿論日本チームの楽勝、というのもイタリアのハンドボールは導入して4年と歴史が浅く技術的なものは全くないし、体格に於いてもヨーロッパ選手と思えない程。しかし、軍隊で本格的にハンドボールを取り入れる様で、これは脅威であると同時に、近接国にユーゴ等世界一流国を控えていることは、今後のレベル向上の一翼をになうことは当然考えられます。でも日本のレベルに到達するには少くとも10年は要するのではないでしょうか。しかしイタリア人のもつ狂気とも思えるファン気質とうまく噛み合えば、サッカー、自転車に次ぐスポーツとして伸びてゆくことと思われます

会談ですが、イタリア人の気質を表わす例として、我々が試合会場に到着して入口を探していた時体育館内で、ものすごい歓声がするのです。一瞬、我々は会場を間違えたのではないかと思った程です。その歓声はなんとハンドボールの試合のもので選手の一挙手、一頭足の動作に寄せられたものなのです。

他国では見られないもので驚きました。この様なファンがハンドボールファンとして日本で多くなればと羨しく思えました。とにかくイタリアのハンドボールはこれからですが、何年後にか一流になり、檜舞台に出てくるのを楽しみにしたいと思います。

話は変りますが、ローマで買物した時、表札値より25％も安くなるのには驚きました。40ドルの品が30ドルにすぐ割引になるのです日本では信じられないことでこれもよき想い出の一つとなることでしょう。

最後にイタリア（ミラノ）在住の東大O・B河内氏に大変御世話になり、心より御礼申し上げておきたいと思います。（FP・大崎電気工業）

グンメルスバッハが優勝

第11回男子ヨーロッパカップトーナメントの決勝戦は4月26日ドルトムントで史上初の東西両ドイツ代表によって行なわれグンメルスバッハ（西ドイツ）が2度目の優勝を飾った。　（詳報次号）

グンメルスバッハ（西独）　14（8−5, 6−6）11　ディナモベルリン（東独）

イスラエル国の印象

木野　実

アジアという我々にとっては、近いところにあり、遠いところに位置しているイスラエル。そして現在小規模ながら戦争状態にあるこの国に入国することは非常な不安でした。ローマを発つ時に全員荷物の検査を受けるという異例な事がおき一層緊張したものでした又夜空港に降りたった時も銃を持った兵隊が多く立ち並ぶ中を通り暗い田園地帯をバスで走っている時も何かが起るんじゃないかという気持で緊張の連続でした。

生温い風がそうさせたのでしょうか。すでにこちらの気候は初夏を思わせる暖たかさでした。

中近東にあるイスラエルはエジプト、アラブに隣接しほとんど砂漠じゃないかと思っていたものでした。しかしさにあらず郊外にいけばいくほど緑が生茂り完全に予想を裏切ってしまいました。というのも古代ローマ時代から侵略のくり返しですっかり荒らされた国土は、独立宣言したのちは、国の復興はまず植林からという合言葉ではじまり荒廃した土地は、みるみる緑にかわったということです首都テラビル（春の丘という意味）は古い建物と新しい建物とがうまく調和を保っています。しかし最近地中海に面した避暑地では観光に力を入れ古い家屋は崩され新しいのがどんどん建ち、とくにホテルが目立ちます。観光にくる人は、ほとんどがアメリカ人です。ここで多くのドルをおとしていくのです。メインストリートでショッピングを楽しんでいるのもそうでした。

この国では、男女に兵役があり国の防衛にあたっています。いたるところに検門があり調べられます。また道路のいたるところで兵隊をみつけることが出来ます。彼らが手をあげれば必ずとまって彼らの目的地まで乗せてやらなければならないのです。我々のバスの中にも機関銃をもった兵士がのりこんできておっかないやら珍しいやらでした。こんな風に突発的に何が起ろうとも限らない時、ハイファから20～30kmいったところでゲーム前各自民家で休息することになったのですが、素直に好意を受けとっていいのか、むしろ断った方がいいという皆の気持でした。おそるおそるついていったものでした。しかしそんな心配もよけいでした。家族みんなで暖ったかいもてなしをうけ子供達共仲よしになり短時間ながら愉しい時をすごしました。

エルサレムに行った時、すでにその場所は廃虚に近いのですが、ユダヤ教の信者が一心不乱に聖書を片手に上半身を振りながら祈りを捧げる姿は、我々日本人にしても気持は変りなくても宗教に対する考え方信仰の厚さは全然ちがっている様に映りました。

期待していたキブツ（社会共同体）はゆっくり見学することが出来ませんでしたが、多くの日本人の方が研修に来ているそうです。

試合は二ゲームして一勝一引分でした。二回ともコンクリートのコートでしたが昨年来よりやっと慣れてきた感じです。一引分は審判の偏見もありましたが我々はどんな状況に対応してもそれに即応していけるだけの精神力を常に持ち合わせていなければならないことを痛感しました。その意味で今回の遠征の最終戦は、気持の良いゲームが出来たことは大きな収獲であった。しかし欧州に近いイスラエルは影響も大ですでに欧州に近いテクニックを身につけています。我々としても油断のならない相手になるだろうと思います。

この国の言葉は全然わからなかったのですが一つだけわかるのがありました。〝シャロム〟という言葉は実に便利で親しみのある言葉でした。あいさつすべてシャロムで通じるし、どんな時も〝シャロム〟でO・Kなのです。シャロムで始って、シャロムで終った四日間のイスラエル滞在でした。

一番うれしかったこと
○みかん工場でたくさんみかんを戴いたこと（一人平均10個）。
一番たのしかったこと
○日本大使館私邸で日本食を腹一杯御馳走になったこと、そして真面目に歌をうたったこと。
一番くやしかったこと
○洒落大会で近藤さんに会長賞をかくとくされたこと。
悲しかったこと
○兵隊さんの姿をみた時。
困ったこと
○お湯が出なくて二・三日風呂に入れなかったこと。
愉快だったこと
○レセプションで田村会長がハッスルしてダンスされたこと。
一番良かったこと
○親善の橋渡しとなったこと、そしてチームワークのよかったこと

（FP・ワクナガ薬品）

台湾での二十二時間

東 一敏

「行きは、よいよい帰りは恐い」。童謡ではないが今回の遠征には、これがピッタリあてはまったと思える。往きは、昨年の遠征で長時間の飛行機は、なれたせいか楽に行けたものの、帰りは思うようにゆかず特に、最終の訪問地、台湾では、本当に、苦労惨たんであった。というのも、イスラエルのテラビル空港で、パリ発東京行きに乗るのに、二時間も待たされいざ香港に着き乗り換える段になると、台湾行きは、出発したばかり。しかたなく、香港に一泊したので、思いがけぬ香港で、暇ができた。買物したいにも、全員金欠病?で街をブラブラするのが関の山。

翌日、予定よりも十八時間遅れて、昼の便で、台湾へ着く。台湾では協会の皆さんや、日本協会の渡辺副会長、宮崎理事の出迎えをうけ、あわただしく天使ホテルに行きユニホームに着替え、体育館へ。その間、僅か三十分で旅の疲れを慰す間もない。本来なら朝十時から、公開練習を行う予定が、四時間半も遅れて、午後二時半から始まる。これまで、アップとゲームしかやってない身体に長時間の飛行機と、時差の関係もあって基本練習の辛いこと。合宿の時の厳しさを思い出す。

台湾では、ハンドボール競技の事を「徳式手球」(ドイツ式ハンドボール)とよばれている。

この日は、大学生、トレーナーの講習会で体育館は満員。我々、欧州仕込み?のプレーを見ようと、各トレーナーは、ペンとノートを手に、又、ビデオ・コーダーにとったり大変だったが果して、効果があったかどうか?。出来れば、もう一度ベスト・コンディションで行きたく思うのと、早ければ、一九七六年のオリンピックには、日本、台湾、韓国とで、予選を組むようになるかもしれない。

夜は、休む間もなく、盛大な歓迎パーティーをうけた。本場の中華料理に舌づつみを打った。最初に出されたものは、一分間もかゝらぬくらいで食べてたのが、十数種類も出されると段々とベルトをゆるめても箸の出がにぶくなり、折角のご馳走も、最後の方では見るだけ。

翌二十三日は午前中、台北市内観光で、陽明山や博物館などを、案内された。博物館は壮麗な建物で古代中国の美術品が、種々あり弁当持参で、こなければ隅々までとても見れないくらいだそうだが残念ながら時間がなく、我々は外見だけ、写真をとるのがやっとで通過した。次の機会には是非観たいものだ。時間がないので、昼食をあわてて食べ、直に、ホテルを出発、バスに乗込む。途中大富豪の葬式行列にあう。思いがけない景色を見ているうちに、空港に着く。しばらく待ってやっと改札、台湾協会の宋さん、温さん、陳さんなど大勢の方々の見送りをうけタラップを上り、なごりおしみつゝ、一路東京へ……。(FP・大崎電気工業)

遠征総回顧

藤中憲二
(FP・日体大→大同製鋼)

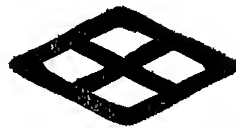
二月十四日、私達一行は羽田を出発、大会の開催国はフランスであるが、その前に、ヨーロッパの試合慣れと共に時差に慣れることの為、最初デンマークに入った。北欲は寒いと聞いていたが、入国した日は、そんなに日本と比らず疲れた中を外出した。デンマークは他の国と別に変った所も無く僕の目についたのは立物が非常に色彩あざやかで、アパートの色、格家屋ごとに色異いで目をひいた。デンマークで三試合した後、フェリーで西ドイツ、ハンブルグに着く西独での期間は短かくさほどの印象は残っていないが、僕達の気を引いたのは〝かざり窓〟で有名なハンブルグの夜の見学。世界選手権が終ると又日本はヨーロッパの強国チームと試合することが出来ず、せっかく選手権が終ってオランダ、イスラエル……と点戦して来ても意味を無くす。日本が世界のAクラス仲間入りする為にはもっと何らかの対策、方法を望む。

フランスの選手権大会が終り水の国オランダで急がしい日程を過す三戦三勝と快調、皆んな試合が終ってのび伸び自由にやっている感じ。オランダで誰れにも知られている風車とチューリップであるが、ちょうど季節が悪く、美しいチューリップを見ることが出来ず残念である。オランダ、イスラエル、イタリアと廻って帰った訳ですが、イスラエルで引き分けた程度で全勝と好調

ナショナルチーム結成二年、日本のナショナルも日をもって強くなっていると再度感じさせられた。こうして日本に帰って感じることはソ連とチェコスロバキアに敗けたのはよいとして大敗したことが大きい。今後日本のハンドボールも世界で活躍する日も近いと思う。



合織糸・合織混紡糸



田村紡績株式会社

社長 田村正衛

四日市市東茂福町10—17
TEL 四日市 6—2156（代表）
郵便番号 512

日本ナショナルチーム候補選手の体力について

〜ナショナルチーム研究第一報〜

日本ハンドボール協会強化指導部員
広田公一
北川勇喜
渡辺慶寿

日本のハンドボール界の期待を一身に担い、斯界の浮沈をかけて出場した世界選手権大会だったが悲願のベストエイト入りは、果たせなかった。

だが今回優勝候補のユーゴと引分けた力が高く評価されている。そこで我々は、ナショナルチームの、今後の歩みを展望する時に過去東京オリンピックで、女子以外はバレーじゃないとまで云われた屈辱に耐え、その後八年にも亘る長期計画を樹てて、ミュンヘンでは、完全に、金メダルを狙うところ迄成長した男子バレーボールチームを分析した時に、松平監督のチーム構想の根流に、大型選手の体力養成を科学的トレーニングでいかに高め、技術修得の練習の中で伸ばしていくかに焦点をしぼり技術修得の練習の中で伸ばしていくかを、豊田トレーナーとともに、これと真剣に取り組んだ結果であると考える。この事実をハンドボール界は謙虚な態度で見つめ且学ばなければならない。今回の大会で、チェコや、ソ連に大敗した原因を究明する時に、どうしても体力不足を浮彫りにしなければならない。そして、体力という器に盛る技術を、何を、どのような順序で修得させなければならないかを今後の課題として考える必要にせまれている。

今回中出氏を中心とする近畿地区のハンドボール関係者から、昨年度と今年度の高体連全日本大会出場チームの体力診断報告書が出された。おそまきながら我々が昨年一月、実施した、ナショナルチームの体力測定の結果を報告書として出す運びとなったが、部数が少なく、ここに誌上を借り、その一部を報告する。

この体力測定は、全国各地区協会より推薦された、選手の中から書類選考で通過した、三十二名の選手を対象とし昨年一月二十一日二十二日青少年オリンピックスポーツセンターで実施されたものである。又体力測定と同時に選手の健康診断も行なわれた。

一　健康診断

内科的診察、安静時血圧、尿検査、胸部レントゲン写真、心電図検査による結果では病的に異常と認められた者はいなかった。

二　体力測定

㋑形態計測　㋺筋力及びパワー㋩敏捷性、㋥柔軟性、㋭持久性、について行なった。尚呼吸機能については 13.5ℓ Benedict-Roth 型レスピロメーターを用いて測定した。

測定成績

ここでは今回測定した結果の主要な面（特に劣る）を指摘し考察し報告します。

形態計測の中で身長のみを見てみると昭和四十年全日本ハンドボール選抜チームの平均が170.7cm今回測定者の平均値が176.6cmと大きくなっているが、これを昭和四十二年の全日本バレーボール選手の平均位186.8cmと比較すると相当のひらきがあることが解る。今だハンドボールに於いて身長の大少がどの様に試合の勝負に左右するかは断言出来ないが、大きい選手の層が厚くなることによって現在以上の有意なチームづくりが可能である様に思われる。

次に筋力の中でも特に背筋力に劣る傾向がみられる。今回測定した成績を全日本バレーボール選手（昭和四十年測定）と比較してみるとバレーボール選手179.5kg±19.7ハンドボール選手155.1kg±1.3と大きな劣差がある。すでに豊島の研究により、投力と背筋力握力、伸腕力、屈腕力の相関関係が深いということが判明しており今後、合理的なトレーニング（ウェートトレーニング）等によって平均170kg以上にする努力と工夫が必要である。又パワー的要素の測定であるサージャントジャンプ値が低いことが指摘される。前例同様バレーボール選手と比較してみるとバレーボール選手75.3cm±9.17。ハンドボール選手62.0cm±5.4である。これは、背筋力、伸脚力が弱いためであり、これを強化する方法として参考までにバレーボール選手におこなわれている方法を紹介しておこう（表参照）又これと類似した方法を日本体育大学ハンドボールチームに行なわせた結果大きな効果があったことを付け加えておく。

ジャンプ力は、エキセントリックな収縮から瞬間的にコンセントリックな力を出しうるという、科学的な論拠に目を向け、バーベルや、ダンベルを用いた膝荷重の伸展運動を多く取り入れている。

第四に指摘されることは、全身反応時であるこれも同様バレーボ

ール選手と比較してみるとバレーボール選手0.312Sec±0.002°ハンドボール選手0.345 Sec±0.032と劣る。全身反応時間がおそいということは、先天的な要因とも考えられるが、一方競技の性格の影響も多分に受けているとも考えられる。即ちハンドボール競技のプレーの多くは、攻撃者或いは防禦者との対応動作のせり合いで発揮される。ハンドボールは、狭いスペースでの攻防の争いであるだけに反応の速さは、必要欠くべからざる身体条件であり、力のある外国選手に対して、スピードの変化で、勝負しなければならない。日本チームにとって個々の選手の反応の鋭敏さが極めて重要な身体的な要素の一つとして指摘される。又同時にスピードも要請されよう。以上のような筋力および全身のパワーづくりや反応時間やスピードに関する能力の向上について、いかにトレーニングで培うか。更にこれらの要素を技術練習の中で養成していくかが、来るべきオリンピック出場権をうる大きなポイントとなろう。

第五にハンドボール選手は、ハンドボール競技の体力行使の質的な面や所要時間からして呼吸循環器系で代表される全身持久性が特に優れているものと推測されているが、今回の測定では、芳しいものではなかった。（表参照）

全身持久性はレスピロメーターによる呼吸機能検査によってくらべた。全身持久性の指標として最大酸素摂取量（O_2をとり入れる能力）が最良とされているが、この測定は困難であり又測定容易な換気能力と相関が高いとされているのでここでは安静時最大換気量を指標として推定した。その結果ついては先にも見られるようによいので182.8 l/min それに対して144.1 l/min、である。これはハンドボール競技には、重要な体力の一つである。したがって今後の練習方式に、インターバル方式レペティション方式、インディアランス方式等をとり入れて、O_2摂取をはじめとして今回は測定しなかったが、O_2負債能力及び呼吸に関連する筋肉群を科学的なトレーニングで強化して持久力を高めなければならない。

以上、今回の測定の結果を考察したが、次回以後に報告する予定の、第二回（十一月実施）の測定値とを合せ、今やハンドボール界は、体力問題と真剣に取り組み、この方向から勝つための、ひたむきな努力をする時であると考える。以上でありますが紙面数が限られ、全般的な詳細を報告することが出来ず残念に思います。したがって他の部分はすでに印刷されましたハンドボールナショナル候補選手体力測定報告書を御参照下さい。

最後にこの研究に心よく御協力下さいました青森県西高校教諭岡本和夫先生、日体大・関根義雄先生、聖和学院教諭・泉川喬先生（当時三者共東京大学研究生）東京大学学生・知原信行君、日体大ハンドボール部員にはこの誌面をかり厚くお礼を申し上げます。

全日本バレーボール男子チームのトレーニング計画

（1週3日，1日平均90分）

■目的／全身の体力＝主に筋力の強化，ジャンプ力の養成

■方法／（ジャンプ力）→全身→（ジャンプ力）→（整理運動）

Ⓐ荷重ゴム紐とび（20〜30kg負荷）——→　（30〜40kg）

正　面とび	10回×2セット	連続とび——→	10回×3セット
ひねりとび	10回×2セット		10回×3セット
前後とび	10回×1セット		10回×2セット
正面とび	10回×2セット		10回×3セット

Ⓑウェイト・トレーニング　（現行）　（目標）

亜鈴振りあげ	15kg×2個・最大回数	
踵のけりあげ	100kg・最大回数	120kg
インクラインドベンチシットアップ	30kg・最大回数	40kg
ハーフスクワット	100kg・最大回数	120kg
上体そらし	30kg・最大回数	40kg
レッグプレス	120kg・最大回数	150kg
アイアンシューズ足の振りあげ	20kg前後20回	30kg
荷重伸膝運動	80kg・最大回数	100kg

Ⓒ荷重とびおりジャンプ

①1m台→とびおり（30kg）荷重→とび上り40cm台

②80cm→とびおり（20〜30kg）→とび上り50cm台

①は木村，三森，森田，横田が実施，②は他の選手

荷重20〜30kgを今後40〜50kgに増す。

Ⓓ整理運動

オリンピック対策部に3氏

日本協会は5月23日の月例常務理事会で、今後の頂点強化対策について協議、席上、村田オリンピック対策部長からオリンピック対策部のスタッフとしてコーチ（兼選手）に竹野奉昭氏、情報担当として藤本、杉山両常務理事を加えることが発表された。

竹野コーチは8月2日からストックフォルムで開かれるIHFコーチシンポジュウムに派遣される注目の女子強化スタッフの決定は次回（6月20日）にもちこされた。

本稿執筆の三氏がまとめたパンフレット「ハンドボール・ナショナルチーム候補選手の体力について」を御希望のかたは返送用切手20円を同封のうえ、日本ハンドボール協会編集部（東京都渋谷区神南1の1〒一五〇）へ6月20日までにお申しこみ下さい。

部数に制限がありますので先着順とし一人1部に限ります。

各種目別呼吸機能測定成績平均値

	1回換気量 mℓ	分時換気量 ℓ/min	予備呼気量 mℓ	深呼気量 mℓ	肺活量 mℓ	1秒量 mℓ	1秒率 (健常予測値) %	最大換気量 ℓ/min	比最大換気量 %	換気予備率 %
日体大ハンドボール	1,024	14.2	1932	3232	5206	4179	89.5	182.8	116.5	90.0
東大生	811	14.4	1647	2618	4150	3604	80.4	150.0	105.9	89.6
陸上	919	17.8	1729	3226	4959	3865	92.8	164.2	106.1	89.9
競泳	1,125	15.1	1711	3576	5302	4497	108.3	180.2	110.3	91.9
飛込	884	15.8	1453	3088	4256	3722	92.6	131.1	92.9	87.9
カヌー	1,043	17.6	1542	3732	4619	3980	99.3	169.4	108.0	89.9
ホッケー	976	13.1	1363	3283	4456	3601	87.4	160.4	110.7	88.7
フェンシング	783	13.1	1613	2833	4291	3715	90.6	142.4	100.0	90.8
体操	660	11.5	1261	2659	3903	3481	90.7	128.5	104.3	91.7
馬術	814	11.7	1438	2568	3960	3365	84.7	129.6	99.4	91.0
全日本、バレー	927	12.1	2145	3487	5483	4623	94.5	182.1	104.5	93.3
日体大 バスケット	934	14.6	1920	3575	4850	3800	88.0	149.0	95.3	90.2
ナショナルハンドボール候補選手	846.1	13.9	1870	3040	4933	4176	91.7	144.1	90.9	90.3

※ バレーS．42.12.21測定　陸上・競泳・飛込・カヌー・ホッケー・フェンシング・体操・馬術
東京オリンピック候補　東大 一般学生、日体バスケット、S．42測定　日体ハンド S．43.6.1測定

身長 (cm)	体重 (Kg)	座高 (cm)	胸囲 (cm)	前腕囲(cm)		上腕囲(cm)		大腿囲 (cm)		下腿囲 (cm)		指極 (cm)	手長	
				右	左	右	左	右	左	右	左		右	左
176.6	69.7	94.9	93.4	27.6	26.5	27.2	26.2	55.5	55.3	38.3	38.4	181.4	21.4	20.2
5.2	7.4	2.9	3.9	1.4	1.3	1.6	1.3	3.0	3.1	2.1	2.1	9.9	1.1	1.0

手幅		皮下脂肪厚 (cm) 側腹		肩甲部		上腕後		上腕前		背筋力 (Kg)	握力 (Kg)	
右	左	右	左	右	左	右	左	右	左		右	左
21.5	20.3	12.0	11.6	9.8	9.9	5.8	5.3	3.4	3.7	158.7	56.0	52.5
0.8	1.2	6.8	7.3	2.7	3.2	2.6	2.4	1.6	1.5	18.6	7.5	6.7

柔軟度 (cm)		反応時間 ($\frac{1}{1000}$秒)			懸垂	遠投 男子用ボール	サージャントジャンプ	立巾跳 (m)		サイドステップ	連続ゴムとび	50m疾走	H.S.T
体前屈度	体後反度	開始	筋収縮	全身反応	(回)	(m)	(cm)	1回	3回	(回)	(回)	(秒)	(点)
12.8	55.3	207.1	134.7	340.2	9.5	40.1	62.0	2.54	7.44	43.9	17.7	7.0	95.2
3.9	5.8	32.8	22.1	30.6	1.3	2.9	5.4	0.1	2.0	3.4	1.1	0.2	12.6

ハンドボールの歩み（第19回）

ライプチッヒ（東独）男女征覇 1966年

HG・コペンハーゲン 1965年 女子の初栄冠を西に

ヨーロッパカップ編 ⑨

世界選手権を特集していた関係で、73、74号と2回連載を休みましたが、今回からまた続けていきたいと考えています。

ふりかえってみますと、今回ですでに19回になってしまいました当初20回ぐらいでまとめたいと思っていたのですが、すでにそれに近いところまで、きてしまいました。

ヨーロッパカップ編も今回で9回になりました。ややスピードをあげ、あと3回で、ヨーロッパカップ編をおわりにし、その後、3～4回で、発生期のハンドボールをとりあげ、25回ぐらいで、一応「ハンドボールの歩み」を完結させ当初予定していた各国でのハンドボールの発展の歴史は今回はふれずに、また項を改めて、連載物にしていきたいと思っています。

今回は1964年から65年にかけて行なわれた第5回女子、1965年から66年にかけて行なわれた第6回女子をまとめて連載し次回に66年～67年の男子第8回、女子第7回、67年～68年にかけた男子第9回、女子第8回をまとめたいと考えているところです。

その後で一回総集編を行ない、ヨーロッパカップ編を閉じたいと思います。これまでと比べ、やや走りぎみの形になると思いますがご了承下さい。

第5回女子大会

第5回女子は、13チームが参加した。これは第4回大会と同数で参加チーム数がほぼ固定してきている。

一回戦は10チームの二回戦方式で行なわれ、HG・コペンハーゲン、1FC・ニュールンベルグ、スイフト・ロエルモンの3チームは幸運にも一回戦で対戦せず、そのまま準々決勝に進んだ。

▽一回戦

フリーグ・オスロー（ノルウェー）　棄権　GKS・ゲテボルグ（スウェーデン）

CDK・プラーグ（チェコ）　19—7　5—16　US・イーブリー・パリ（フランス）

1勝1敗、得失点差24—23でCDK・プラーグの勝ち

スパルタクス・ブダペスト（ハンガリー）　16—3　8—17　ルフ・チヨルツォウ（ポーランド）

1勝1敗、24—20でスパルタクスの勝ち。

ロコモチバ・ザグレブ（ユーゴー）　14—4　9—2　ダニュービ・ウイン（オーストリア）

ロコモチバ・ザグレブ2勝。

ツルド・モスコー（ソ連）　13—10　11—7　フォルトシュリット・ババヘセンフェルス（東ドイツ）

ツルド・モスコー2勝。

数は前回と同様、第4回大会を休んだ、スウェーデンが復活したが棄権、ルーマニアが出場しないことで、実数は12にへった。

前回優勝のルーマニアが参加していないことはたいへんに淋しいことである。

一回戦8試合は、当時の力としてはまず順当なところであろうが、US・イーブリーがホームゲームで、良くCDK・プラーグを追いこみ、一点差につめよった試合が注目される。

▽準々決勝

スパルタクス・ブダペスト　①10—7　②7—9　ツルド・モスコー

1勝1敗、得失点差17—16でスパルタクス・ブダペストの勝ち。

HG・コペンハーゲン（デンマーク）　①17—9　記録不明　フリーグ・オスロー

スイフト・ロエルモン（オランダ）　①6—5　②5—5　1FC・ニュールンベルグ（西ドイツ）

1勝1分でスイフト・ロエルモンの勝ち。

ロコモチバ・ザグレブ　①11—8　記録不明　CKO・プラーグ

西欧圏、東欧圏の4チームづつが星をつぶしあった。

ソ連のツルド・モスコーはホームゲームあと一点の追加がかるくスパルタクスの前に降った。

HG・コペンハーゲンは快調にとばした。スイフト・ロエルモン

はオランダとしては、はじめての

しかも、現在まで、ただ一度のベスト・フォア進出を決定した。西ドイツの古豪、FC・ニュールンベルグはこれもまた1点に泣くことになった。

▽準決勝

スパルタクス・ブダペスト ①7—6 ②7—4 ロコモチバ・ザグレブ

HG・コペンハーゲン ①16—8 ②12—3 スイフト・ロエルモン

スパルタクス、HGともに快調に二勝をあげ、決勝に進出した。特にHGは、相手が相手ということもあるが、二試合とも大差で破っての決勝進出となった。

第3回、第4回大会と、FIFコペンハーゲン、ヘルジンガー・IFがHG同様に決勝進出を果したが、今一歩の力がなく、ソルド・モスコー、ラピッド・ブカレストの前に敗れ去っている。

今回こそは、三度目の挑戦をなんとか飾りたいデンマーク、このあとで行なわれる第三回世界選手権で優勝するといったほど、当時充実を見せていたハンガリーの中心チームの対決になった。

▽決勝

HG・コペンハーゲン ①14—6 ②7—10 スパルタクス・ブダペスト

1勝1敗、得失点差21—16でHGの勝ち。

HGは、宿願の栄冠をやっとの思いでデンマークにもたらすことに成功した。前々回と前回、決勝に進出しながらも果せなかった優勝をHGがこの年なしとげた。

この後の第6回大会でも連続出場したHGが決勝に進出するが、これも敗退してしまう。しかしながら、この頃のデンマーク女子の充実ぶりには眼をみはるものがある。

HG・決勝で1点足りず

女子第6回大会

女子の第6回大会は前回同様にやはり13チームの参加を見て、1965年〜6年にかけて行なわれた。

前回とほぼ同様のチームが参加しているが、前回登録だけして、棄権したスウェーデンが今回はまた参加せず、それに替って、アイスランドが初参加して話題をまいている。また不出場のユーゴーに替ってブルガリアが初参加している。

一回戦は10試合、HG・コペンハーゲン、ディミトロフ・ソフィア、スパルタクス・ブダペストを除く10チームが2回戦方式で戦った。

▽一回戦

バイエル・リバクーゼン（西ドイツ） 11—1 10—6 ダニュービア・ウィーン（オーストリア）

バイエル・リバクーゼン2勝

SC・ライプチッヒ（東ドイツ） 6—3 8—6 スイフト・ロエルモン（オランダ）

SC・ライプチッヒ2勝

バルール・レイキャビック（アイスランド） 11—9 記録不明 スコーゲン・オスロー（ノールウェー）

スパルタク・プラーグ（チェコ） 10—4 記録不明 ゴルニック・カトビッツ（ポーランド）

ツルド・モスコー（ソ連） 19—9 記録不明 AC・コロンブ・パリ（フランス）

一回戦は順当な結果におわった西ドイツの覇者バイエル・リバクーゼンが快調だったこと、ツルド・モスコーのめだった得点力が話題であった。この年の一回戦、記録が手元にない部分が多いのは申し訳ない。いずれ問い合せをしないといけないのだが、IHFでも完全には判っていないので、困っているのが実情である。

▽準々決勝

スパルタク・プラーグ ①12—10 ②6—7 バイエル・リバクーゼン

1勝1敗、得失点差18—17でスパルタク・プラーグの勝ち。

SC・ライプチッヒ ①19—8 ②26—9 バルール・レイキャビック

SC・ライプチッヒ2勝。

HG・コペンハーゲン（デンマーク） ①10—8 ②9—7 ツルド・モスコー

HG・コペンハーゲン2勝。

スパルタクス・ブダペスト（ハンガリー） ①5—8 ②13—2 ディミトロフ・ソフィア（ブルガリア）

1勝1敗、得失点差18—10でスパルタクスの勝ち。

強豪が順当に勝ち進んだが、SC・ライプチッヒの圧勝が眼につく。またHGのツルド・モスコーを相手にしての戦いぶりもおおいに注目されるところである。

▽準決勝

HG・コペンハーゲン ①8—2 ②10—10 スパルタク・プラーグ

1勝1分でHGの勝ち。

SC・ライプチッヒ ①10—4 ②5—5 スパルタクス・ブダペスト

1勝1分でSC・ライプチッヒの勝ち。

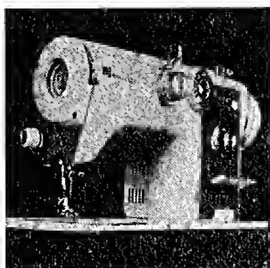
▽決勝

SC・ライプチッヒ 7—6 HG・コペンハーゲン

この大会から、決勝は一回戦方式となり、現今の形式が完成したSC・ライプチッヒはHG・コペンハーゲンの追撃をふりきり、一点差で辛勝し、栄冠をライプチッヒにもたらした。

この年、東ドイツは第3回の世界選手権で優勝したハンガリーと予選であたり、二回戦方式で一勝一敗、得失点差0という戦いをしながら、くじ運に恵まれず、ハンガリーに本大会出場資格をゆづっている。

（藤本強）





下関中央工"逆転"で3連勝
女子は山陽女が3年ぶり

第21回中国高校

今年のブロック・インター・ハイのトップを飾る第21回中国高校選手権は5月10、11の両日山口県立体育館と山口中央高球技場に中国5県の代表男子16、女子15校が参加して開かれた。

男子は全日本高校優勝校下関中央工（山口）の試合ぶりが焦点となった。ベストフォアは山口、広島勢が占め互いに星をつぶしあった結果、下関中央工—三原工（広島）の決勝となり、三原工の積極的な攻撃はタイムアップ2分前までリードを奪ったが、下関は23分同点のあと終了30秒前の7MTを活かして逆転勝ち、3年連続6度目の優勝を決めた。下関のすばらしい粘りと三原工、岩国工（山口）らの充実が目立った。

女子は3連勝を狙う真備（岡山）が準々決勝で敗退、有力候補広島一女商（広島）も緒戦で高水（山口）に敗れる番狂せがあったが山陽女（広島）、徳山（山口）が安定した試合運びで決勝へ進出。多彩な攻撃を見せた山陽女が粘る徳山を突きはなし3年ぶり6度目の優勝を飾った。

▽男子1回戦

岩国（山口）10（2—5、8—3）8 倉敷商（岡山）
修道（広島）17（9—4、8—8）12 松江商（島根）
浜田水産（島根）20（8—5、12—5）10 倉吉工（鳥取）
三原工（広島）11（5—1、6—7）8 矢掛（岡山）
岩国工（山口）22（9—2、13—5）7 児島（岡山）
広（広島）16（8—4、8—2）6 境港工（鳥取）
呉三津田（広島）15（10—5、5—8）13 松江工（島根）
下関中央工（山口）17（10—4、7—2）6 津山商（岡山）

▽同準々決勝

修道 10（7—3、3—5）8 岩国
三原工 18（6—4、12—4）8 浜田水産
岩国工 8（3—5、5—1）6 広
下関中央工 12（7—4、5—5）9 呉三津田

▽同準決勝

三原工 7（3—3、4—3）6 修道
下関中央工 10（5—5、5—3）8 岩国工

▽同決勝

下関中央工 8（3—5、5—2）7 三原工

▽女子1回戦

徳山（山口）14—0 呉商（広島）
真備（岡山）15—4 白木（広島）
山口中央（山口）14—5 浜田水産（島根）
松江家政（島根）13—3 井原（岡山）
高水（山口）7—2 広島一女商（広島）
松江南（島根）13—11 金川（岡山）
山陽女（広島）11—6 下関西（山口）

▽同準々決勝

徳山 13（4—2、9—1）3 津山商（岡山）
山口中央 10（6—1、4—0）1 真備
高水 16（8—0、8—5）5 松江家政
山陽女 18（10—1、8—0）1 松江南

▽同準決勝

徳山 11（6—3、5—1）4 山口中央
山陽女 9（2—3、7—1）4 高水

▽同決勝

山陽女 10（5—3、5—5）8 徳山

各地の記録

スワロー兵庫、実業団おさえる

▼兵庫県一般春季大会（5月・神戸商）＝男子のみ

▽準々決勝

川崎重工 18—15 尼崎ク
スワロー兵庫 37—16 友幸ク
富士レジン 34—14 鈴高OB
神戸製鋼 25—11 大阪機工

▽準決勝

スワロー兵庫 36—20 川崎重工
神戸製鋼 18—13 富士レジン

▽決勝

スワロー兵庫 29（14—6、15—7）13 神戸製鋼

住友化学菊本強し 女子は土居高勝つ

▼愛媛県スポーツ祭ハンドボール（5月・松山）

▽男子準々決勝

松山商大 34—6 松山東高
松山工高 24—21 愛媛教員
新田高 28—6 今治南高
住友化学 31—8 愛媛大

▽同準決勝

松山商大 25—12 松山工高
住友化学 27—5 新田高

▽同決勝、

住友化学菊本 19（8—6、11—3）9 松山商大

▽女子1回戦（1試合）

東温ク 13—11 今治南高

▽同準決勝

全松山商 15—5 東温ク
土居高 10—4 明徳商

▽同決勝

土居高 11（5—2、6—1）3 全松山商

大同製鋼が抜群の強さ

▼第2回林（愛知実連会長）杯争奪愛知実業団リーグ（5月・名古屋）

▽男子1部
新日本製鉄 17—7 トヨタ車体
ブラザー工業 19—16 日本碍子
大同製鋼 32—11 ブラザー工業
大同製鋼 27—8 トヨタ車体
新日本製鉄 26—13 ブラザー工業
大同製鋼 33—11 日本碍子
ブラザー工業 15—10 トヨタ車体
新日本製鉄 27—11 日本碍子
大同製鋼 24—7 新日本製鋼
トヨタ車体 21—17 日本碍子

【順位】①大同製鋼4戦全勝（＝2連勝）②新日本製鉄3勝1敗③ブラザー工業2勝2敗④トヨタ車体1勝3敗⑤日本碍子4敗
【2部順位】①三菱重工3戦全勝②パイロットインキ1勝1敗1分③豊田工機1勝1敗1分④タヨシ産業3敗

ワクナガ薬品が貫録示す

▼第24回大阪府民体育祭ハンドボール（5月・天王寺高）

▽一般男子準々決勝
六陵ク 18—15 雪陵ク
春日丘ク 16—7 八尾ク
ワクナガ薬品 23—6 宗形製作所
佐野工ク 17—8 北陽ク

▽同準決勝
ワクナガ薬品 26—4 六陵ク
佐野工ク 20—7 春日丘ク

▽同決勝
ワクナガ薬品 21（12—4, 9—6）10 佐野工ク

▽同女子準決勝（＝1回戦）
寝屋川ク 10—8 大阪スターズ
大谷ク 12—1 豊陵ク

▽同決勝
寝屋川ク 10（0—2, 10—4）6 大谷ク

日進商会が優勝

▼神奈川県春季選手権（5月・横浜）＝一般男子のみ

▽準々決勝
日進商会 25—24 三春台ク
セントラル自動車B 10—7 法政二ク
法工ク 21—14 横須賀自衛隊
セントラル自動車A 28—10 川和ク

▽準決勝
日進商会 21—9 セントラル自動車B
セントラル自動車A 19—4 法工ク

▽決勝
日進商会 23（10—5, 13—7）12 セントラル自動車

高校は一商と江南勝つ

▼神奈川県高校大会（4月・横浜）

▽男子準々決勝（決勝トーナメント1回戦）
桜丘 19—8 法政二
横浜一商 15—6 日野
大和 26—9 関東学院
市立川崎 12—10 向の岡工

▽同準決勝
桜丘 14—12 大和
横浜一商 15—9 市立川崎

▽同決勝
横浜一商 13（6—4, 7—8）12 桜丘

▽女子準々決勝（決勝トーナメント1回戦）
二俣川 20—6 上溝
北鎌倉 12—3 大津
市立川崎 7—5 東
江南 13—0 平沼

▽同準決勝
北鎌倉 7—6 二俣川
江南 8—1 市立川崎

▽同決勝
江南 3（2—1, 1—1）2 北鎌倉

山梨は塩山商が強味

▼第14回山梨県高校春季大会（5月・甲府）

▽男子準決勝
明誠 21—6 韮崎工
塩山商 16—2 甲府商

▽同決勝
塩山商 10（5—4, 5—3）7 明誠

▽女子準決勝
山梨 18—3 長坂
甲府商 6—2 塩山商

▽同決勝
山梨 15（8—3, 7—1）4 甲府商

岡山教員、岡山大降す

▼岡山県一般男子春季大会（4月天城高）

▽1回戦（2試合）
九州耐火煉瓦 17—8 落合ク
全倉敷 20—13 津山工専

▽準決勝
岡山大 34—11 九州耐火煉瓦
岡山教員ク 31—16 全倉敷

▽決勝
岡山教員 17（9—6, 8—9）15 岡山大

中学大会記録

▼神奈川県春季選手権（5月・横浜）

▽男子準々決勝
旭 19—8 大野南
港南 18—6 高津
蒔田 20—11 大野北
万騎ケ原 24—5 関東学院

▽同準決勝
港南 19—9 旭
蒔田 10—9 万騎ケ原

▽同決勝
港南 15（10—7, 5—6）13 蒔田

▽女子準決勝
大野北 13—9 港南
蒔田 16—6 川島

▽同決勝
蒔田 11（6—2, 5—6）8 大野北

編集後記

□……学生界のレベルについて、最近はどうもあまりいい点がつけられていないようである。

ハンドボールに限らず日本スポーツ界の主流として永くその地位を保って来た学生界の低迷は各競技に共通の現象といえる。若者のものの考えかたが変ったことがいちばんの原因ではないか。各校の先輩も「伝統」というものを改めて考え、見つめなおす時期に来ていると思う。

□……実業団球界の充実度はシーズンごとに高められているようだ。こちらの方は、これから新しい球史と伝統が刻まれていく。

企業というワクのなかでいかにハンドボールを楽しみ、技と力をみがいていくか。前途はかなり大きく開かれているとみたい。

これで学生界が昔日の威勢をとりもどしてくれたらと思う読者もたくさんおられるだろう。

□……本誌も11年目を迎えた。それなりに「特質」のようなものが生まれつつある。

球界発展のためにつねに新鮮な話題を求め批判精神を盛りこんでいきたい。機関誌なのに球界や協会にもの申すのはどうか、という声を聞かないでもない。しかし編集部としては〝考える〟態度がなければ読者の支持も本誌の伝統も高められないと思っている（S）

日本ハンドボール協会編「ハンドボール」
第七十六号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十五年五月二十五日印刷 昭和四十五年六月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京 区神南一-一-一
電話 表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価百五十円（年間購読11回・千二百円）